

令和4年度
全国学力・学習状況調査
長野県の結果

長野県教育委員会

目 次

I	全国学力・学習状況調査の実施状況	1
II	全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題	2
1	教科に関する調査の結果と分析	2
(1)	令和4年度 教科に関する調査の結果と分析	
(2)	これまで（平成19年度～令和4年度）の調査結果の経年変化と分析	
(3)	過去5回（平成29年度～令和4年度）の調査結果の経年変化と分析（標準化得点）	
(4)	過去5回（平成29年度～令和4年度）の調査結果の経年変化と分析（平均正答率・無解答率）	
2	質問紙調査の結果と分析	19
(1)	令和4年度 質問紙調査の結果と分析	
(2)	過去3回（平成31年度～令和4年度）の調査結果の経年変化と分析	
III	全国の分析との比較	26
1	教科に関する調査結果	27
2	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（1）	30
3	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（2）	32
4	教科に関する質問紙調査の状況 国語	34
5	教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学	36
6	教科に関する質問紙調査の状況 理科	38
7	児童生徒の自己肯定感等に関する状況	40
8	ICTを活用した学習状況	42
9	新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業等と児童生徒の学習状況	46
10	その他	47

I 全国学力・学習状況調査の実施状況

1 実施日 令和4年4月19日（火）

2 対象学年 小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

3 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 国語，算数・数学及び理科の3教科について，調査を実施した。

(イ) 出題範囲は，調査する学年の前年度までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの教科に関し，以下のとおりであった。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識及び技能 等

②知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(ウ) 調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととし，出題形式については，記述式の問題を一定割合で導入した。

イ 質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

質問紙調査は，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査を実施した。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施した。

4 令和4年4月19日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

〔表 I〕 調査実施校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施校数	児童数	実施校数	生徒数
長野県（公立）	350 校	15,087 人	187 校	15,529 人
全 国（公立）	18,671 校	965,761 人	9,348 校	892,585 人

※調査を実施した児童生徒数は，回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題，質問紙調査問題，全国の状況などは，国立教育政策研究所のホームページ（<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>）を参照のこと。

II 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

1 教科に関する調査の結果と分析

(1) 令和4年度 教科に関する調査の結果と分析

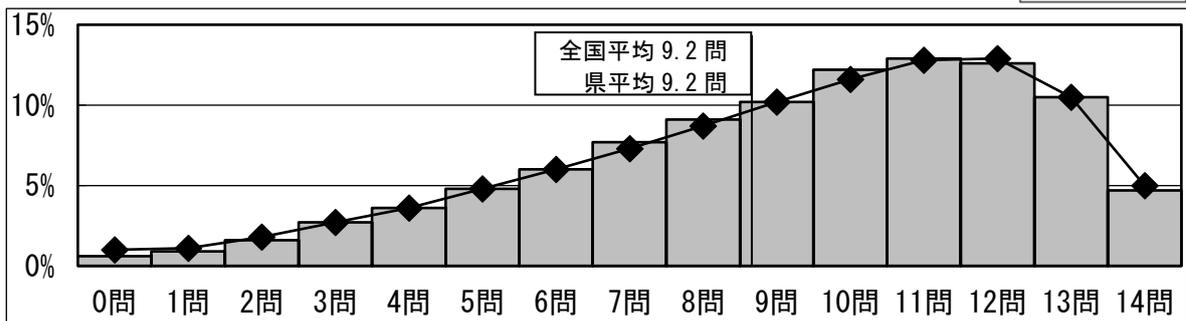
ア 小学校における平均正答率及び平均正答数，正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数，正答数分布

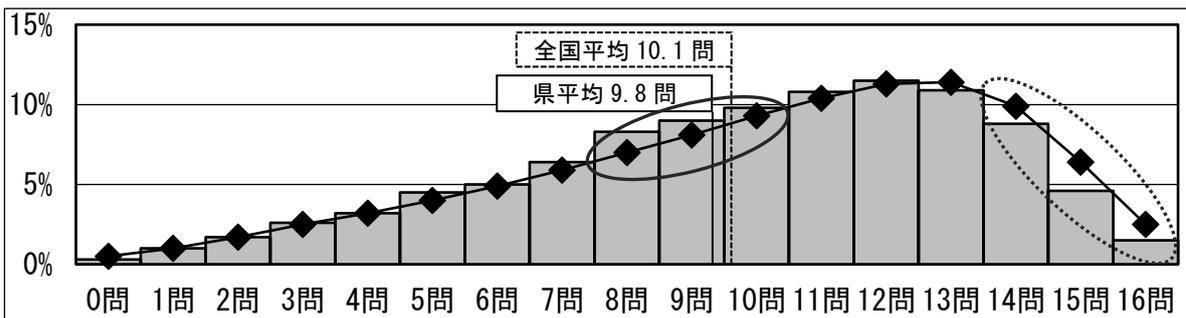
〔表Ⅱ-1〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（小学校）

科目	区分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県（公立）	66%	9.2／14問
	全国（公立）	65.6%	9.2／14問
算数	長野県（公立）	62%	9.8／16問
	全国（公立）	63.2%	10.1／16問
理科	長野県（公立）	63%	10.8／17問
	全国（公立）	63.3%	10.8／17問

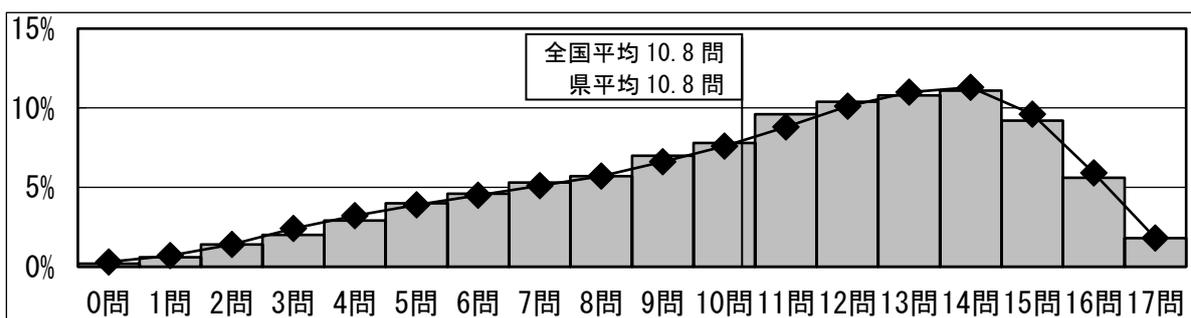
〔グラフⅡ-1〕 正答数分布グラフ（国語）※グラフⅡ-1，2，3の横軸は正答数，縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-2〕 正答数分布グラフ（算数）



〔グラフⅡ-3〕 正答数分布グラフ（理科）



(イ) 分析

- ・国語と理科の平均正答数及び平均正答率は、全国と同程度である。(表Ⅱ-1)
- ・算数の平均正答数は、全国の平均正答数を0.3ポイント下回った。(表Ⅱ-1)
- ・国語と理科の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフⅡ-1, 3)
- ・算数では、正答数が8から10問の割合が全国平均よりもやや高く、14問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-2)

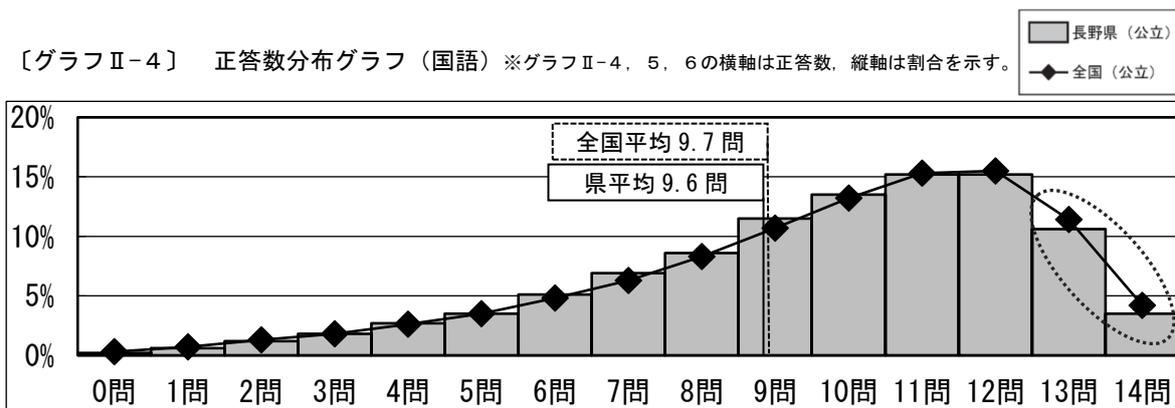
イ 中学校における平均正答率及び平均正答数、正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数、正答数分布

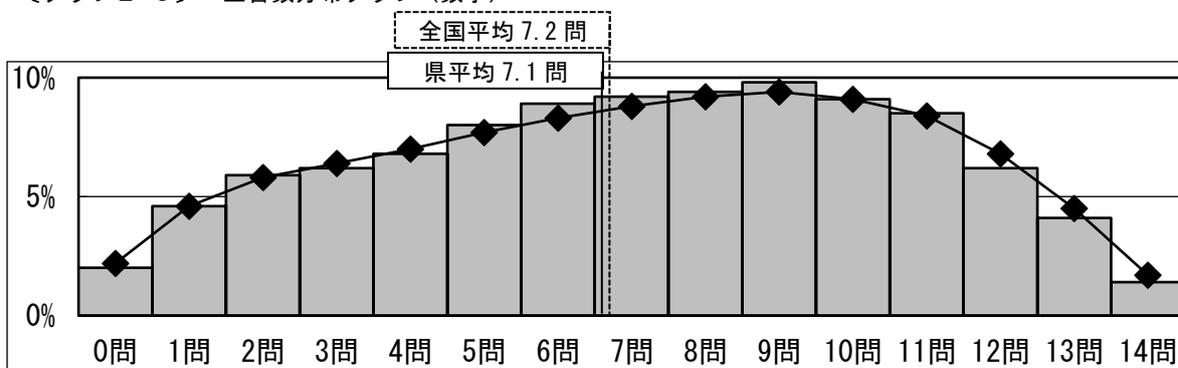
〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数 (中学校)

科目	区分	平均正答率	平均正答数/全問数
国語	長野県 (公立)	68%	9.6/14 問
	全 国 (公立)	69.0%	9.7/14 問
数学	長野県 (公立)	51%	7.1/14 問
	全 国 (公立)	51.4%	7.2/14 問
理科	長野県 (公立)	50%	10.6/21 問
	全 国 (公立)	49.3%	10.4/21 問

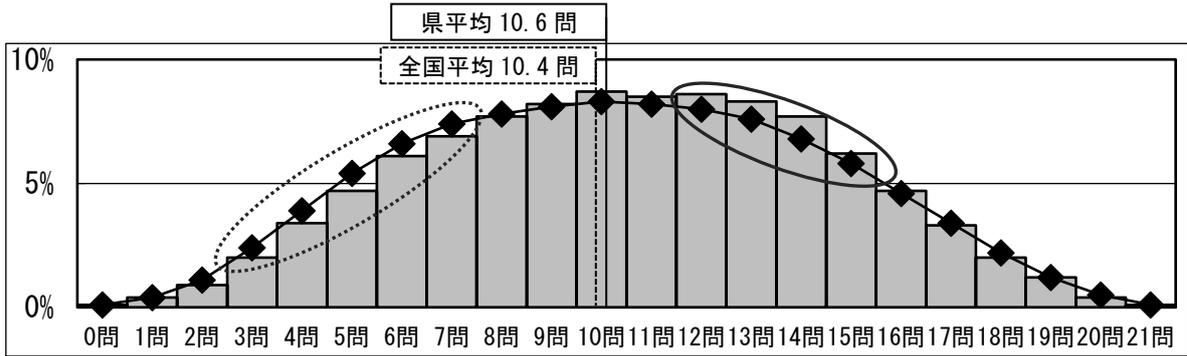
〔グラフⅡ-4〕 正答数分布グラフ (国語) ※グラフⅡ-4, 5, 6の横軸は正答数, 縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-5〕 正答数分布グラフ (数学)



〔グラフⅡ-6〕 正答数分布グラフ（理科）



(イ) 分析

- ・数学は、平均正答数及び平均正答率が全国と同程度であり、理科は若干上回った。

(表Ⅱ-2)

- ・国語は、平均正答数及び平均正答率が全国を若干下回った。(表Ⅱ-2)
- ・国語と数学の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向であるが、国語は13問以上、数学は12問以上の生徒の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-4, 5)
- ・理科では、正答数が3問から7問の割合が全国平均よりもやや低く、12問から15問の生徒の割合が全国平均よりも高い。(グラフⅡ-6)

(2) これまで（平成19年度～令和4年度）の調査結果の経年変化と分析

ア 小学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（小学校）

教科	県・全国	H19	H20	H21	H22*	H24*	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教科	H31	R3	R4
		(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(抽出)	(抽出)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)		(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)
国語A	県(公立)	82	67	70	83~85	82~83	64	73	70	74	75	72	国語	64	63	66
	全国(公立)	82	65	70	83~84	81~82	63	73	70	73	75	71		64	65	66
	全国との差	0	+2	0			+1	0	0	+1	0	+1		0	-2	0
国語B	県(公立)	63	51	51	78~80	55~57	50	57	66	59	57	55				
	全国(公立)	62	51	51	78	55~56	49	56	65	58	58	55				
	全国との差	+1	0	0			+1	+1	+1	+1	-1	0				
算数A	県(公立)	84	72	80	73~75	72~74	78	79	75	77	78	62	算数	66	70	62
	全国(公立)	82	72	79	74	73~74	77	78	75	78	79	64		67	70	63
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	-1	-1	-2		-1	0	-1
算数B	県(公立)	64	51	54	48~49	58~60	60	59	45	47	46	50				
	全国(公立)	64	52	55	49~50	59	58	58	45	47	46	52				
	全国との差	0	-1	-1			+2	+1	0	0	0	-2				
理科	県(公立)					60~62			61			61				63
	全国(公立)					61			61			60				63
	全国との差								0			+1				0

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は、令和3年度における全国の平均正答率との差が-2であったが、令和4年度は0である。(表Ⅱ-3)

◆算数は、平成30年度における全国の平均正答率との差は、A、Bともに-2、平成31年度(令和元年度)は-1、令和3年度は0と差が少なくなってきたが、令和4年度は

-1である。(表Ⅱ-3)

イ 中学校における経年変化(平均正答率)と分析

(ア) 平均正答率

【表Ⅱ-4】 教科に関する調査の平均正答率の経年変化(中学校)

教科	県・全国	H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22* (抽出)	H24* (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)	教科	H31 (R元) (悉皆)	R3 (悉皆)	R4 (悉皆)
国語A	県(公立)	84	74	78	74~ 75	76~ 77	77	80	76	76	78	76	国語	73	65	68
	全国(公立)	82	74	77	75	75	76	79	76	76	77	76		73	65	69
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	0	+1	0		0	-1	
国語B	県(公立)	73	61	75	63~ 65	63~ 65	66	49	65	66	72	61				
	全国(公立)	72	61	75	65~ 66	63	67	51	66	67	72	61				
	全国との差	+1	0	0			-1	-2	-1	-1	0	0				
数学A	県(公立)	73	63	63	61~ 64	61~ 64	62	67	64	61	64	65	数学	60	57	51
	全国(公立)	72	63	63	64~ 65	62	64	67	64	62	65	66		60	57	51
	全国との差	+1	0	0			-2	0	0	-1	-1	-1		0	0	0
数学B	県(公立)	62	50	57	40~ 43	47~ 50	40	58	41	44	48	46				
	全国(公立)	61	49	57	43~ 44	49~ 50	42	60	42	44	48	47				
	全国との差	+1	+1	0			-2	-2	-1	0	0	-1				
理科	県(公立)					50~ 52			53			66	英語	54	理科	50
	全国(公立)					51			53			66		56		49
	全国との差								0			0		-2		+1

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語は、全国の平均正答率との差について、平成30年度(A及びB問題)から0で推移してきたが、令和4年度は-1である。(表Ⅱ-4)

◇数学は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)、昨年度に引き

続き、令和4年度も0で推移している。(表Ⅱ-4)

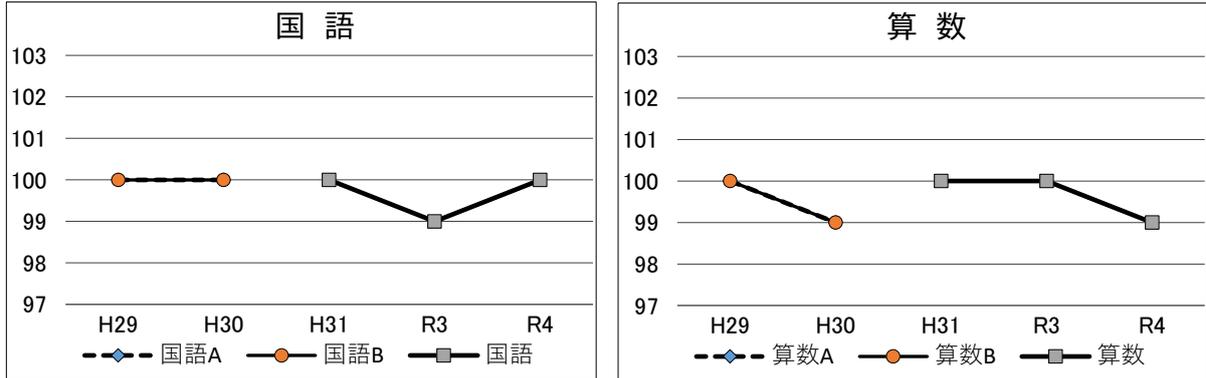
(3) 過去5回(平成29年度～令和4年度^{※1})の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

ア 小学校の経年変化(標準化得点^{※2})と分析

※2 標準化得点…各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の全国(公立)の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-7〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇国語の標準化得点は、令和3年度は99であったが、令和4年度は100に上がった。

(グラフⅡ-7)

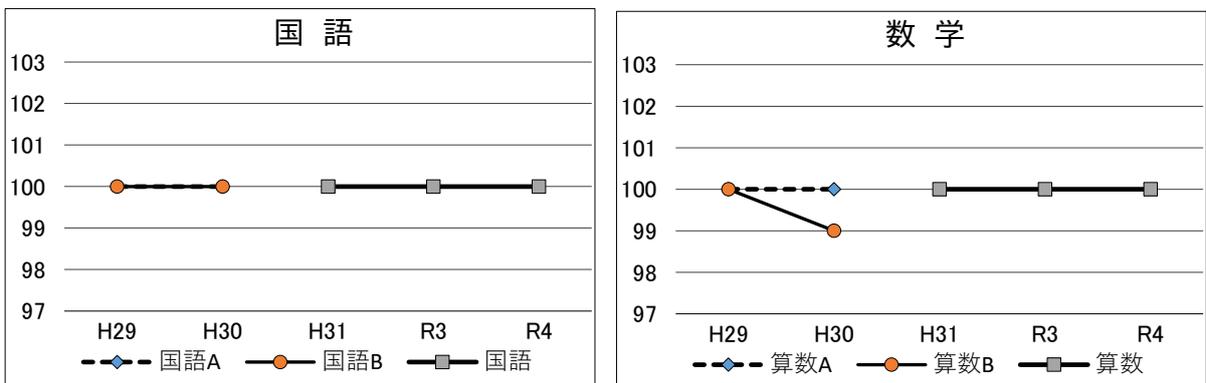
◆算数の標準化得点は、平成31年度と令和3年度は100で推移していたが、令和4年度は99に下がった。(グラフⅡ-7)

◇理科の標準化得点は、令和4年度は、100であった。

イ 中学校の経年変化(標準化得点^{※2})と分析

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-8〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇国語の標準化得点は、平成29年度以降、100で推移している。(グラフⅡ-8)

◇数学の標準化得点は、平成31年度以降、100で推移している。(グラフⅡ-8)

◇理科の標準化得点は、令和4年度は、100であった。

(4) 過去5回（平成29年度～令和4年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

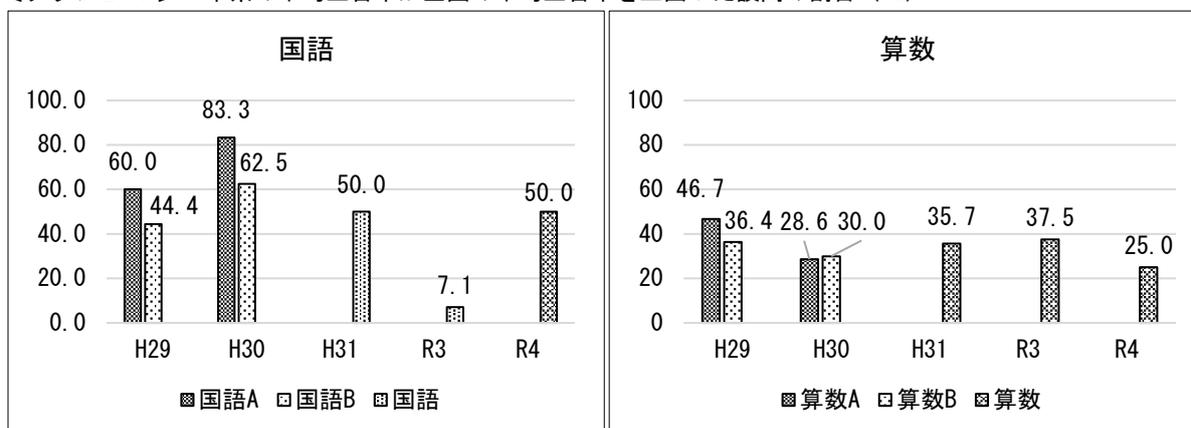
ア 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問数と無解答率

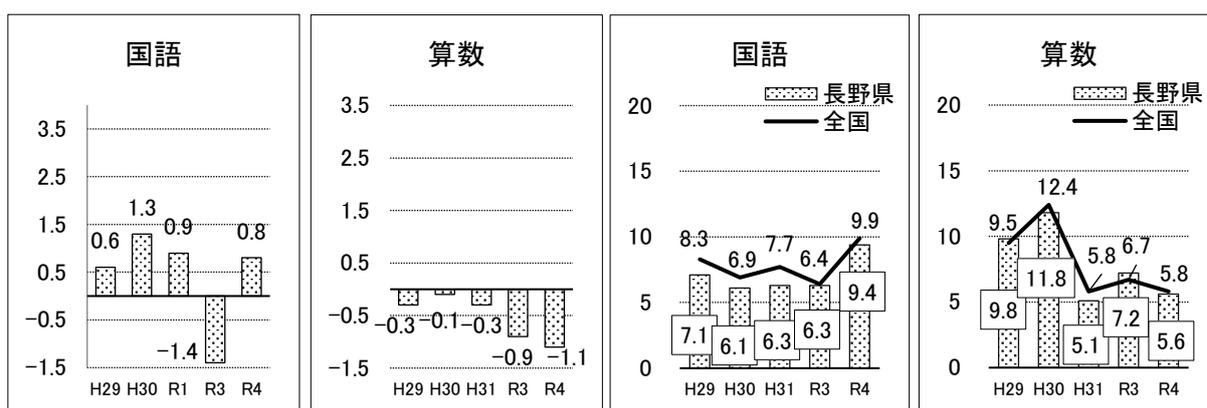
〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

	国語A	国語B	算数A	算数B	
平成29年度	9 / 15	4 / 9	7 / 15	4 / 11	理科
平成30年度	10 / 12	5 / 8	4 / 14	3 / 10	8 / 16
	国語		算数		
平成31年度	7 / 14		5 / 14		
令和3年度	1 / 14		6 / 16		理科
令和4年度	7 / 14		4 / 16		9 / 17

〔グラフⅡ-9〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-10〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語について、令和4年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和3年度より増加している。(グラフⅡ-9)

◇国語について、令和4年度の記述問題の平均正答率は全国を上回っている。(グラフⅡ-10)

◆算数について、令和4年度の記述問題の平均正答率は全国を下回り、平成29年度以降、

全国より低い状態が続いている。(グラフⅡ-10)

◇国語、算数ともに記述問題における平均無解答率は、令和4年度、全国平均を下回っている。(グラフⅡ-11)

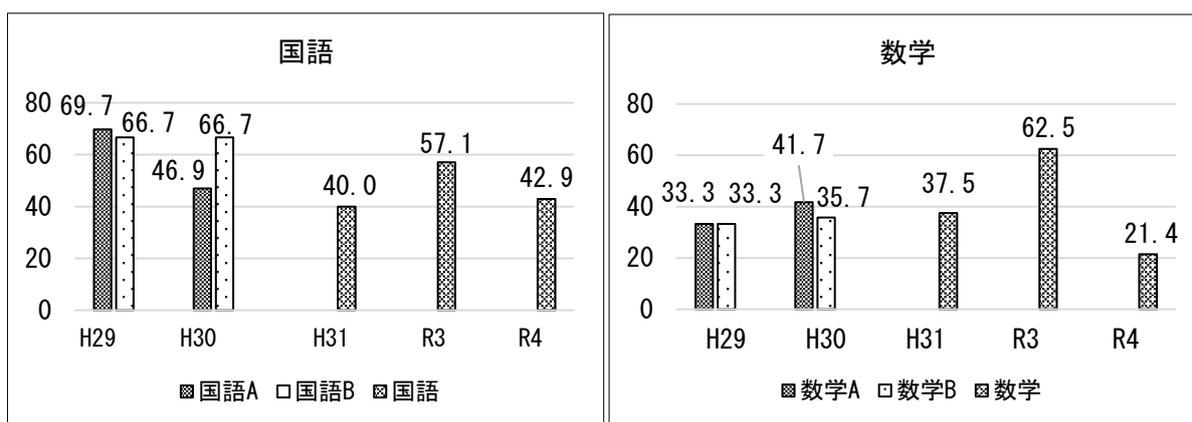
イ 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問と無解答率

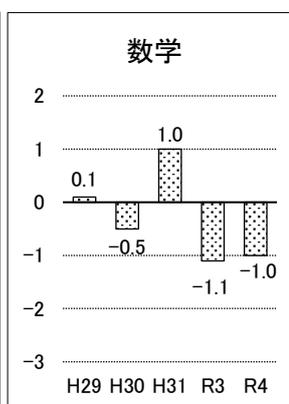
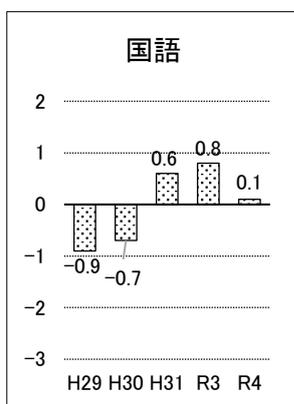
〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

	国語A	国語B	数学A	数学B	
平成29年度	23/32	6/9	12/36	5/15	理科
平成30年度	15/32	6/9	15/36	5/14	16/27
	国語		数学		
平成31年度	4/10		6/16		
令和3年度	8/14		10/16		理科
令和4年度	6/14		3/14		12/21

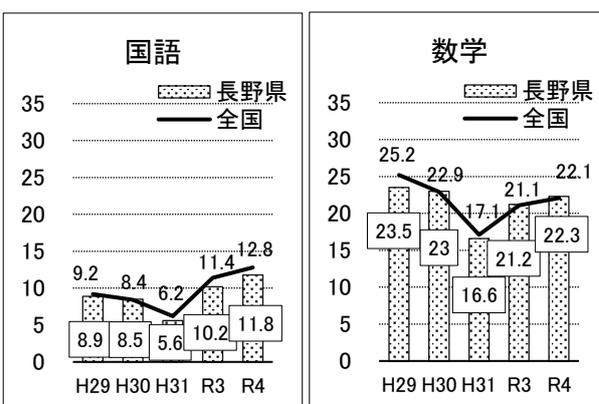
〔グラフⅡ-12〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（%）



〔グラフⅡ-13〕 記述問題の全国平均正答率との差（%）



〔グラフⅡ-14〕 記述問題における平均無解答率（%）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語、数学ともに令和4年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和3年度より減少している。(グラフⅡ-12)

◇国語について、平成 31 年度以降、記述問題の平均正答率は、全国を上回っており、平均無解答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-13、グラフⅡ-14)

◆数学について、令和 4 年度の記述問題の平均正答率は、全国を下回っている。
(グラフⅡ-13)

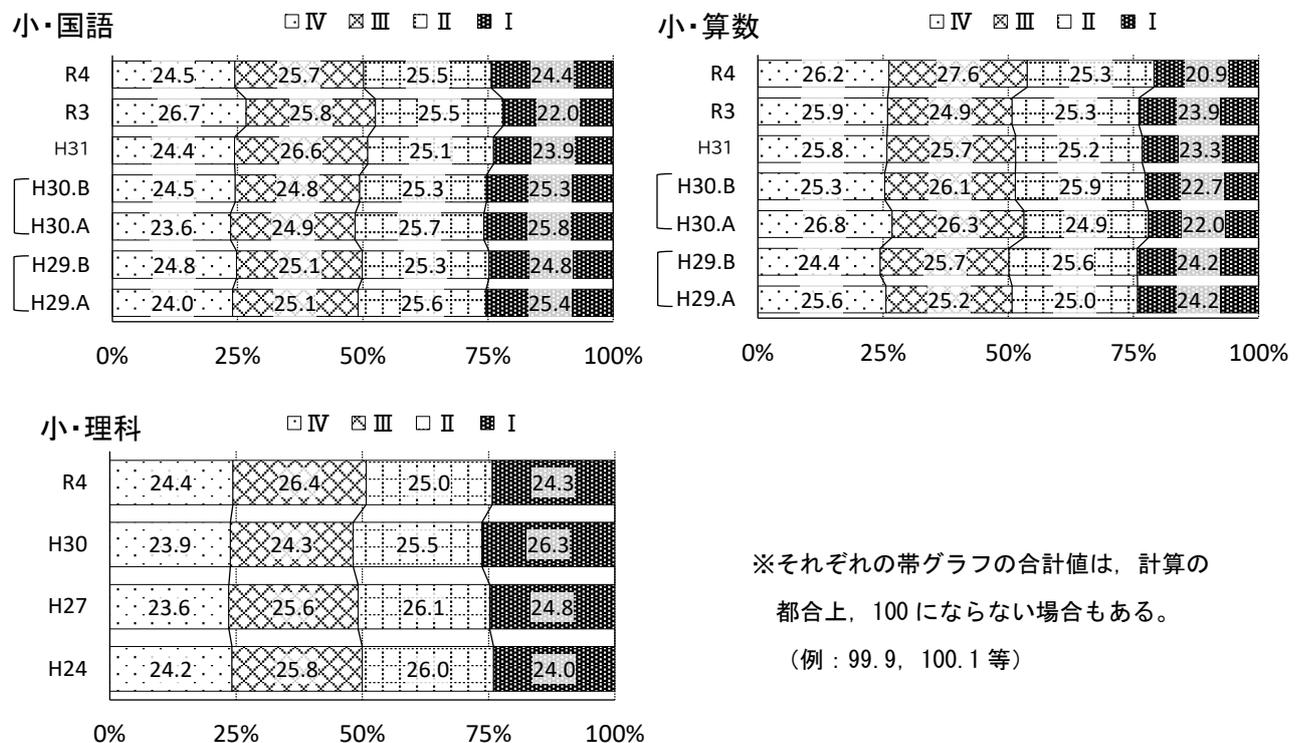
◆数学について、平成 31 年度以降、記述問題の平均無解答率は増加し、全国同様の傾向を示している。(グラフⅡ-14)

ウ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I（上位 25%以内）、II（25%～50%）、III（50%～75%）、IV（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-15〕 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。
(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇国語は I 層の割合が令和 3 年度よりも増加し、IV 層の割合が令和 3 年度よりも減少したことから、上位層の割合が令和 3 年度と比べて増加し、下位層の割合が令和 3 年度よりも減少していることがわかる。(グラフⅡ-15)

◆算数は I 層の割合が令和 3 年度よりも減少し、III と IV 層を合わせた割合が令和 3 年度よりも増加したことから、上位層の割合が令和 3 年度と比べて減少し、下位層の割合が令和 3 年度よりも増加していることがわかる。(グラフⅡ-15)

◆算数は、I 層の割合が 25%を下回り、IV 層の割合が 25%を上回っている状態が続いている。(グラフⅡ-15)

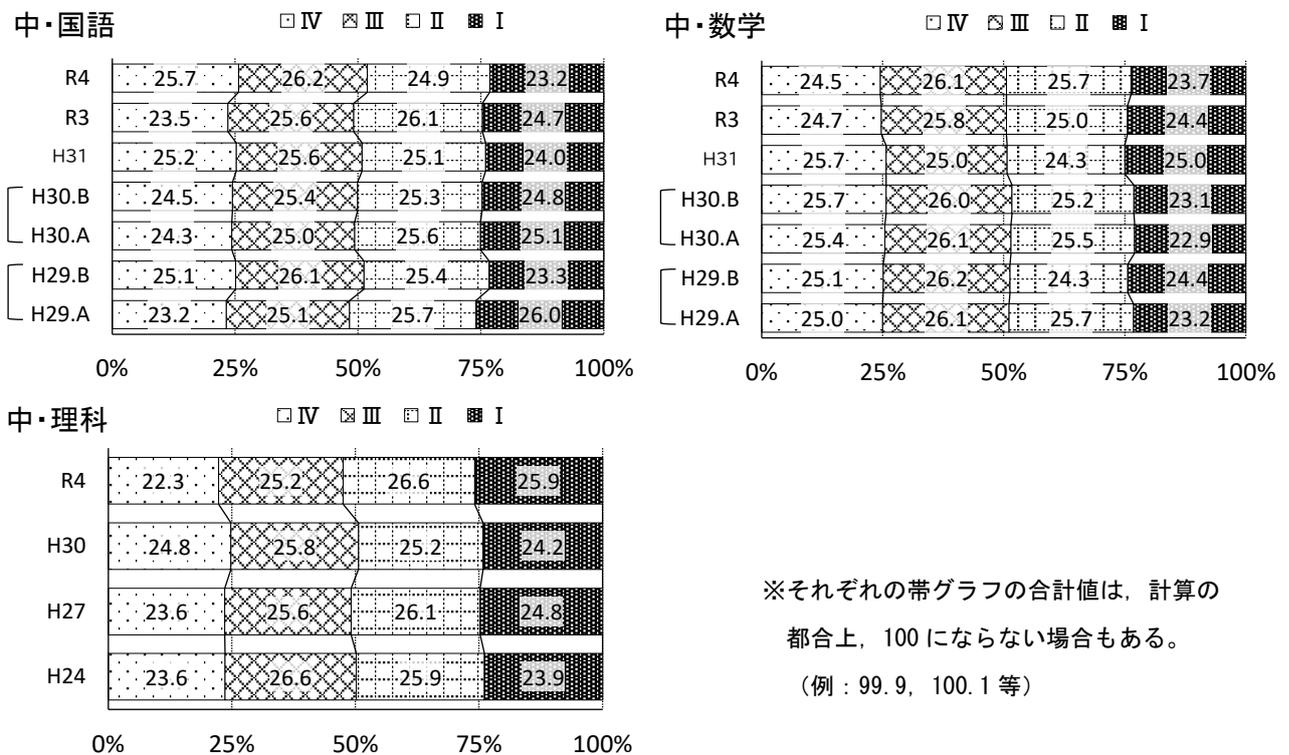
◆理科はⅠ層の割合が平成30年度よりも減少し、ⅢとⅣ層を合わせた割合が平成30年度よりも増加したことから、上位層の割合が平成30年度と比べて減少し、下位層の割合が平成30年度よりも増加していることがわかる。(グラフⅡ-15)

エ 中学校の経年変化(分布に着目した経年の状況)と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国を受検者を正答数の多い順に並べ、上位から25%ずつ4分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4等分となるよう補正)し、それぞれの区分をⅠ(上位25%以内)、Ⅱ(25%~50%)、Ⅲ(50%~75%)、Ⅳ(75%~100%)とした上で、各区分に入る長野県の生徒の割合を求めた。

[グラフⅡ-16] 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。
(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語はⅠ層の割合が令和3年度よりも減少し、Ⅳ層が令和3年度よりも増加したことから、上位層の割合が令和3年度と比べて減少し、下位層の割合が令和3年度と比べて増加していることがわかる。(グラフⅡ-16)

◆数学はⅠ層の割合が令和3年度よりも減少したことから、上位層の割合が令和3年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-16)

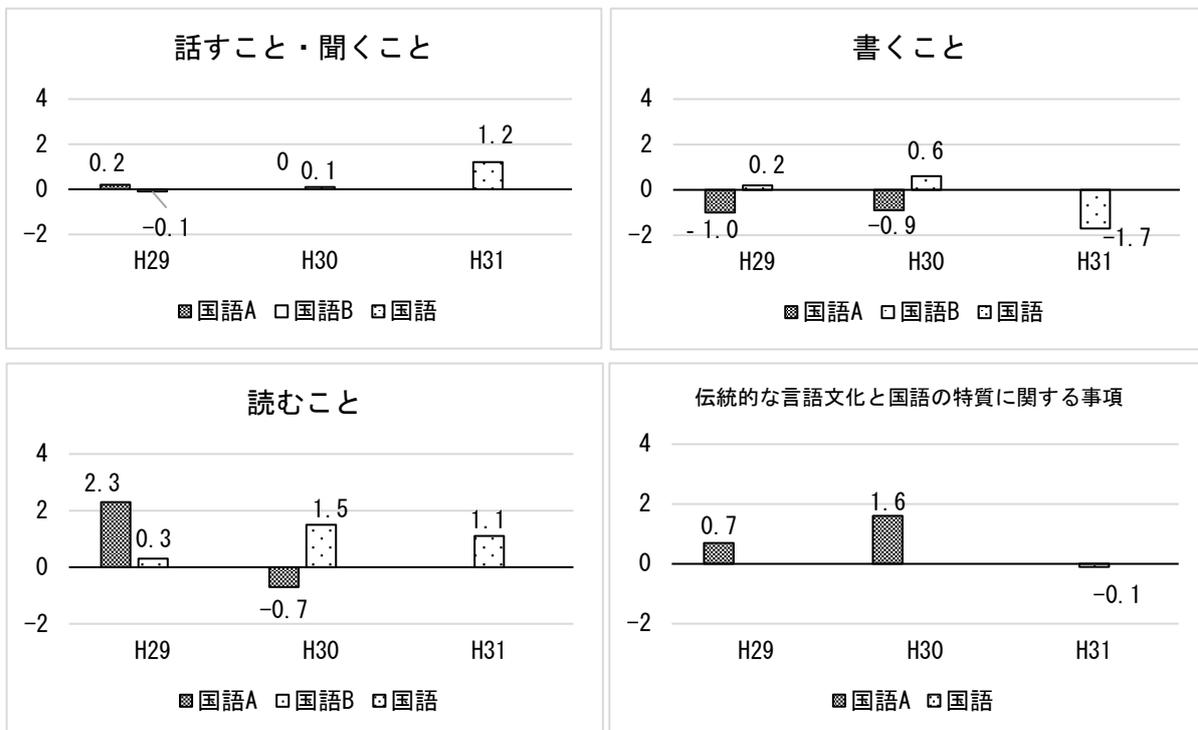
◇理科はⅠ層の割合が平成30年度よりも増加し、Ⅳ層の割合が平成30年度よりも減少したことから、上位層の割合が平成30年度と比べて増加し、下位層の割合が平成30年度よりも減少していることがわかる。(グラフⅡ-16)

オ 小学校国語の経年変化と分析

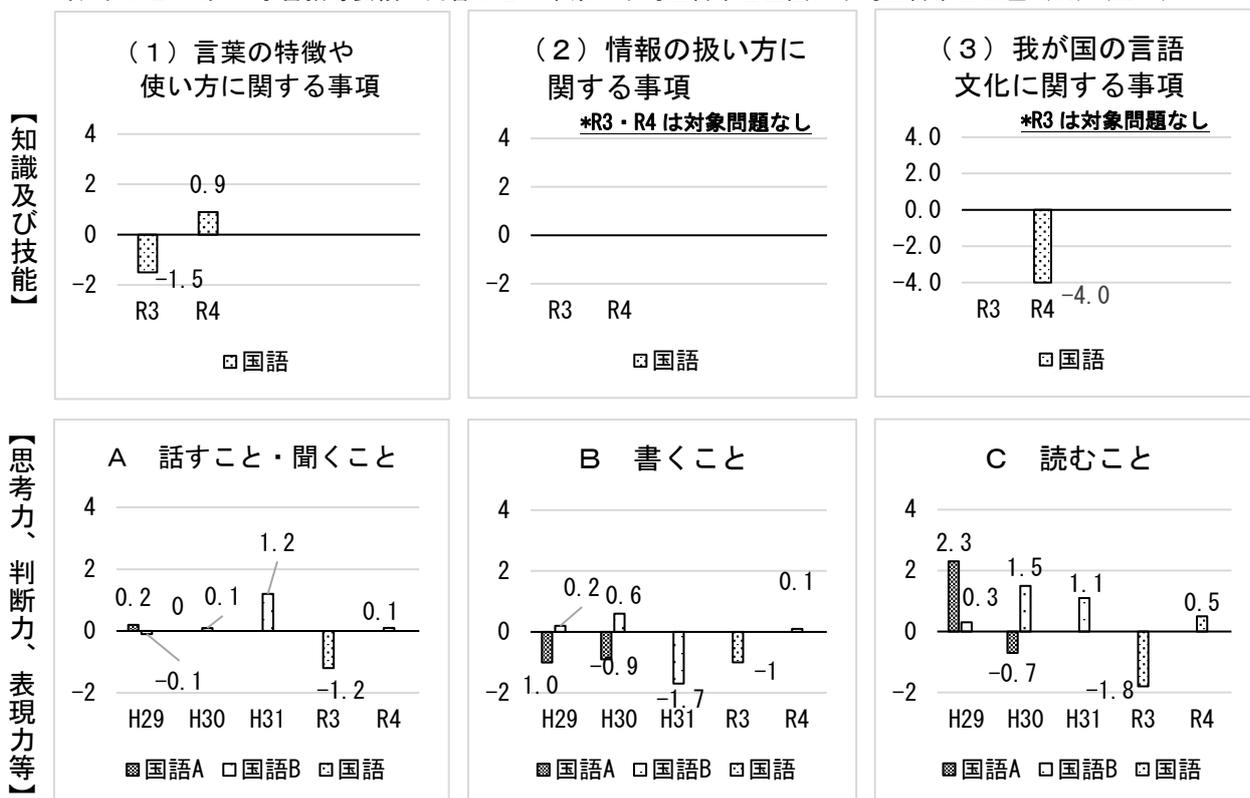
(ア) 内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

平成 29 年度から令和 4 年度までの学習指導要領の内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

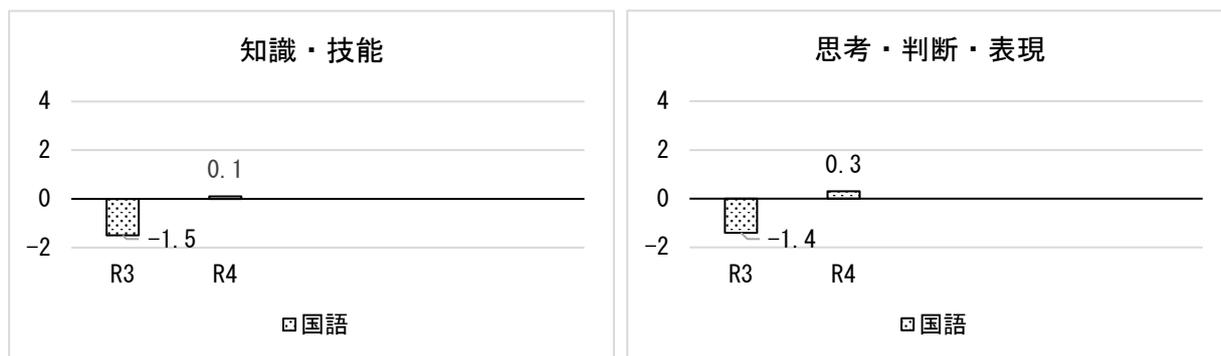
〔グラフⅡ-17〕 学習指導要領の領域等ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（H29～H31）



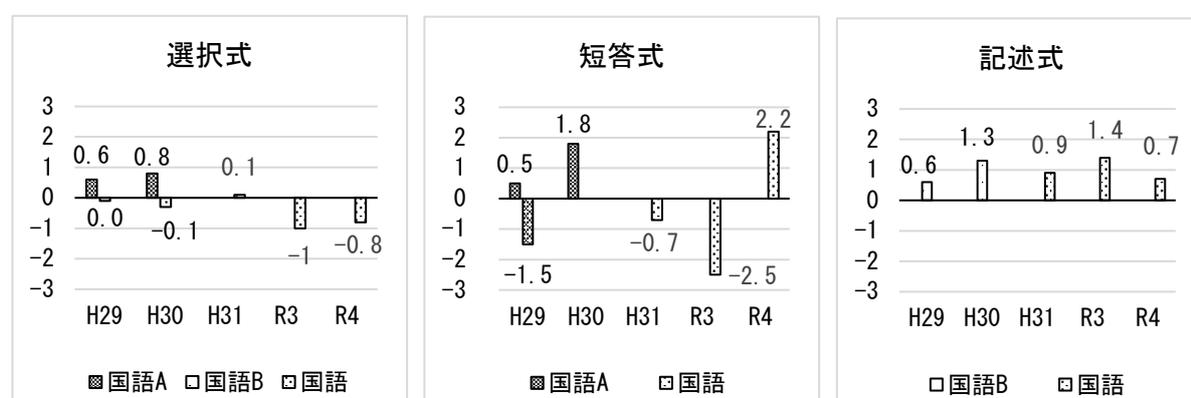
〔グラフⅡ-18〕 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）



〔グラフⅡ-19〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）



〔グラフⅡ-20〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆我が国の言語文化に関する事項の平均正答率は、全国を4ポイント下回っている。

(グラフⅡ-18)

◇話すこと・聞くこと，書くこと，読むこと及び評価の観点の知識・技能，思考・判断・表現の平均正答率は，令和3年度から増加し，全国を上回っている。(グラフⅡ-18, 19)

◇選択式の平均正答率は，全国を下回っている。(グラフⅡ-20)

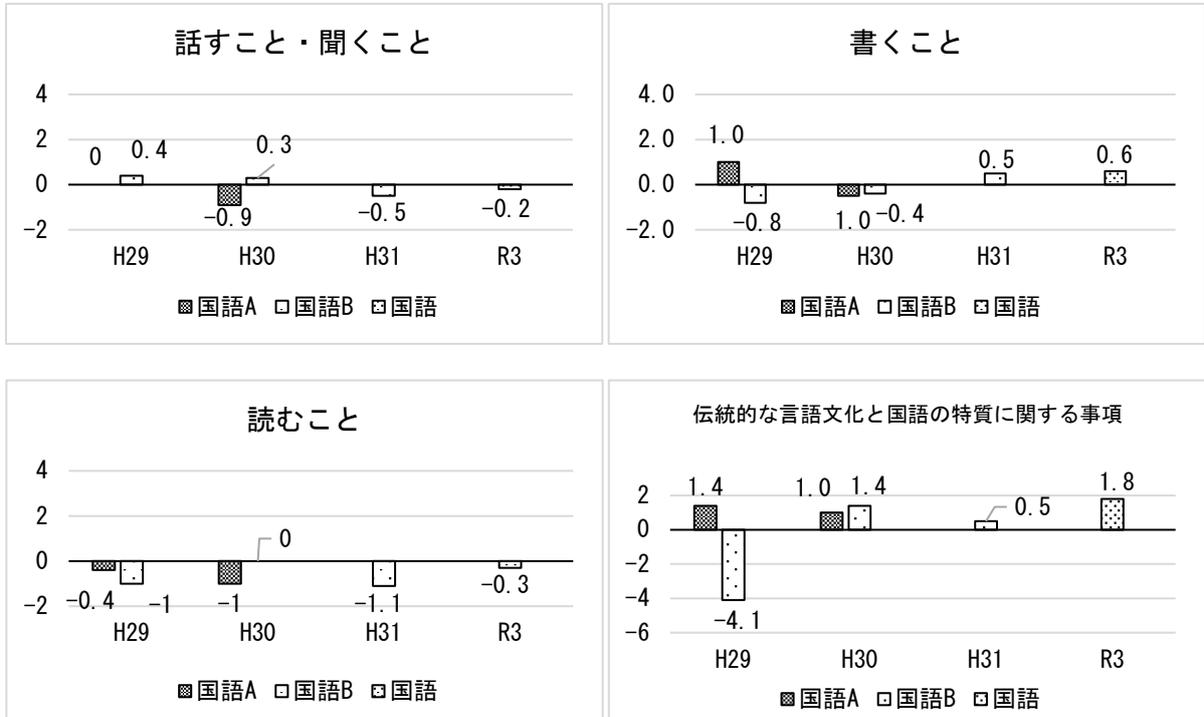
◆短答式及び記述式の平均正答率は，全国を上回っており，記述式は平成29年度以降，全国より高い状況が続いている。(グラフⅡ-20)

カ 中学校国語の経年変化と分析

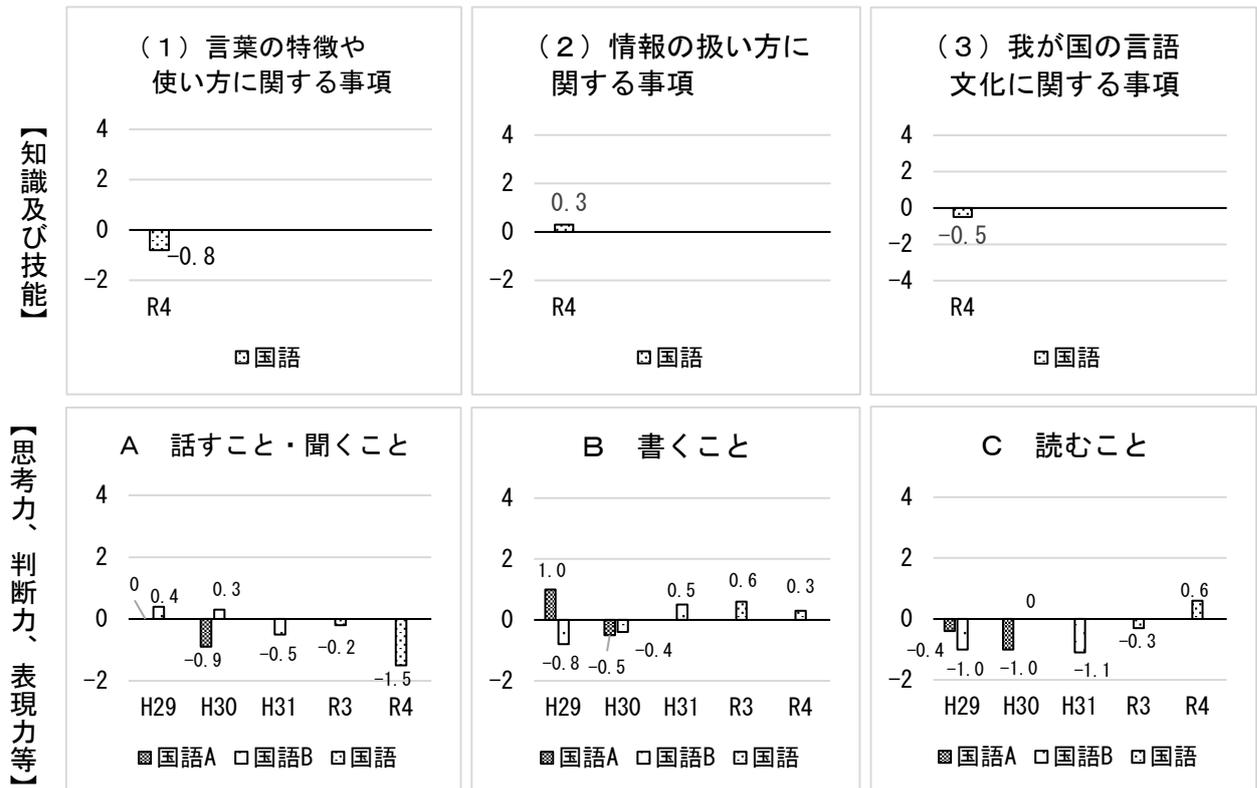
(ア) 内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても平成 29 年度から令和 4 年度までの学習指導要領の内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

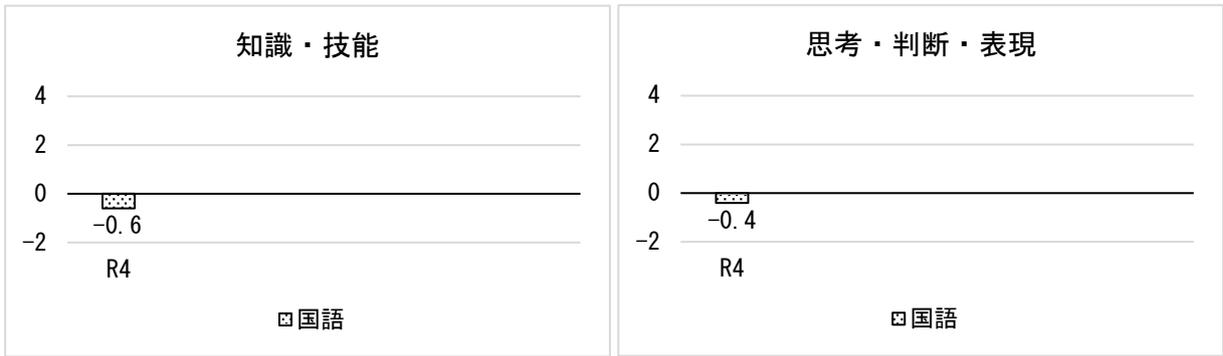
〔グラフⅡ-21〕 学習指導要領の領域等ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（H29～R3）



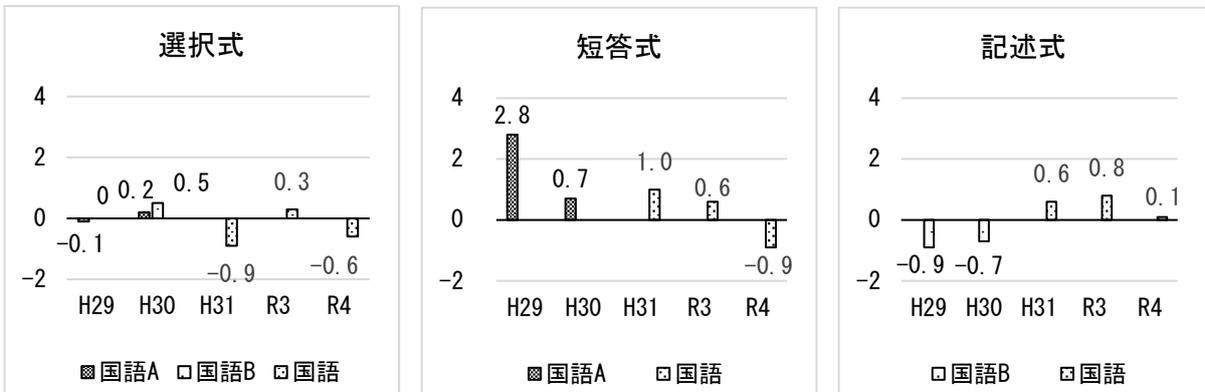
〔グラフⅡ-22〕 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（R4～）



[グラフⅡ-23] 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4～)



[グラフⅡ-24] 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆言葉の特徴や使い方に関する事項，我が国の言語文化に関する事項，話すこと・聞くこととの平均正答率は，全国を下回っている。(グラフⅡ-22)

◇情報の扱い方に関する事項，書くこと，読むこととの平均正答率は，全国を上回っている。

(グラフⅡ-22)

◇評価の観点の知識・技能，思考・判断・表現の平均正答率は，全国を下回っている。

(グラフⅡ-23)

◆選択式及び短答式の平均正答率は，令和3年度は全国を上回っていたが，本年度は全国を下回っている。(グラフⅡ-24)

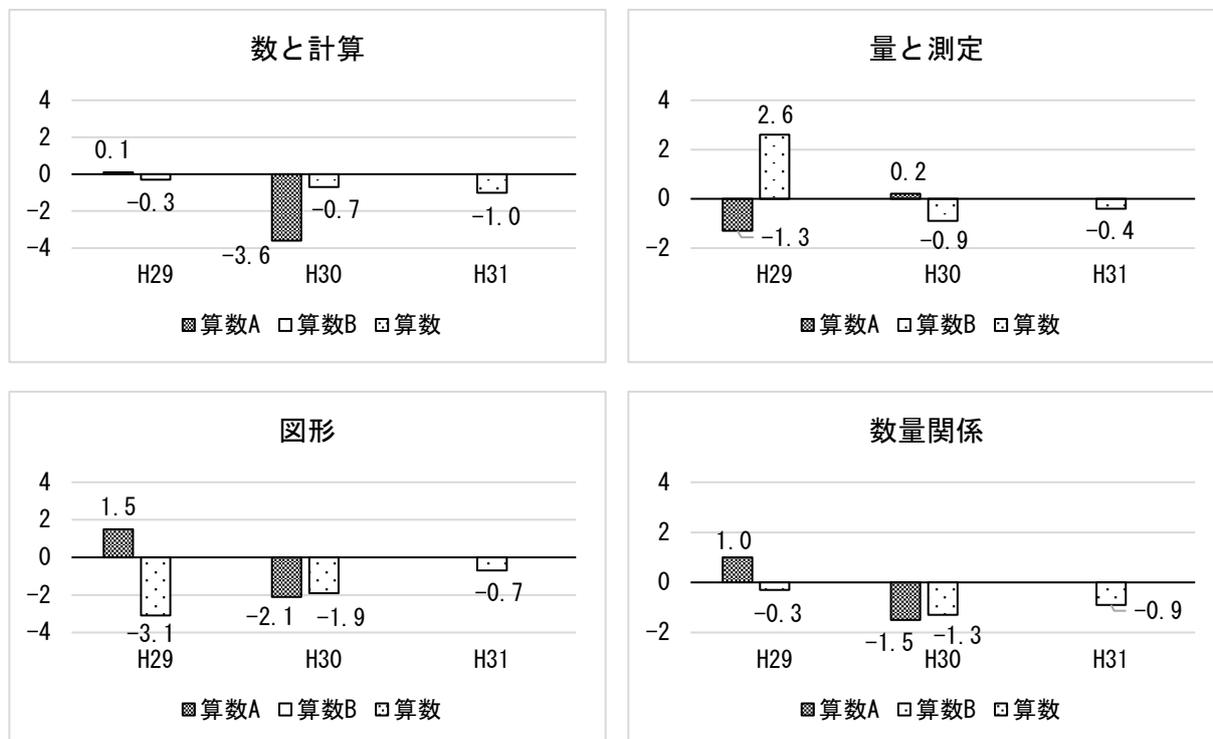
◇記述式の平均正答率は，平成31年度から全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-24)

キ 小学校算数の経年変化と分析

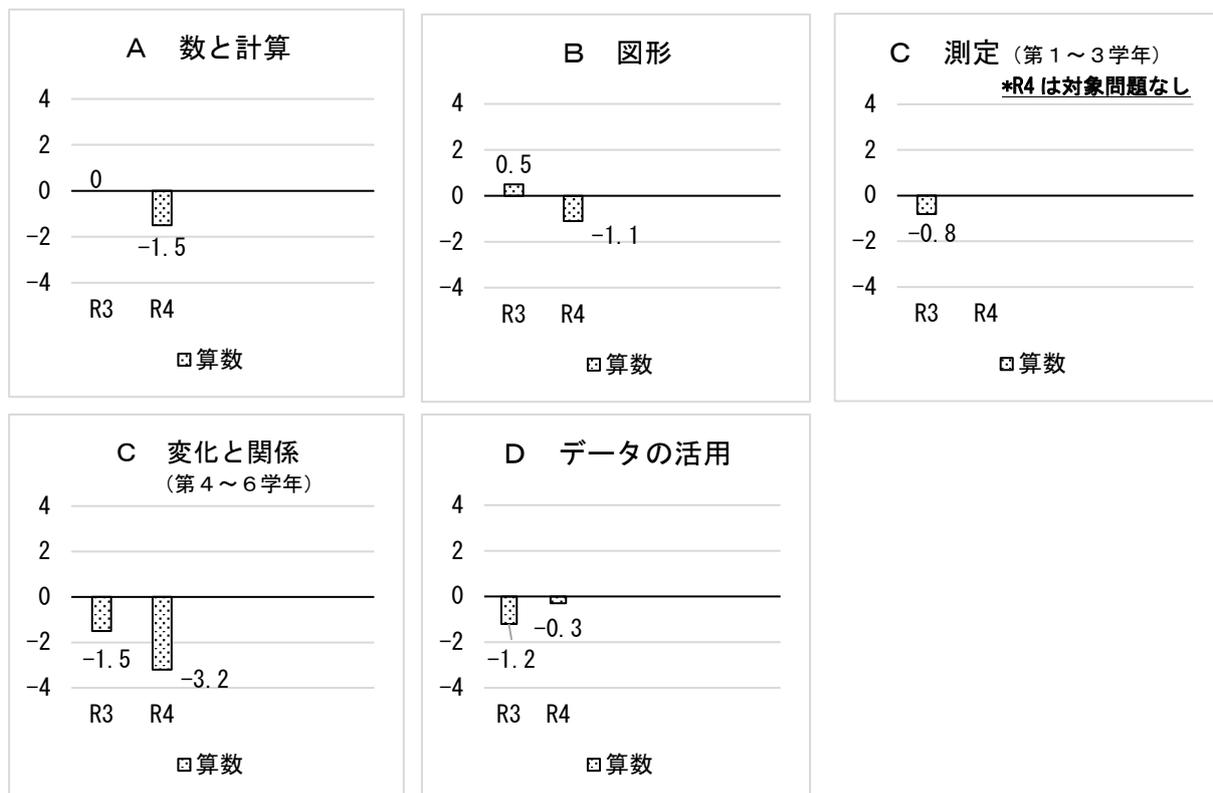
(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

平成 29 年度から令和 4 年度までの学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

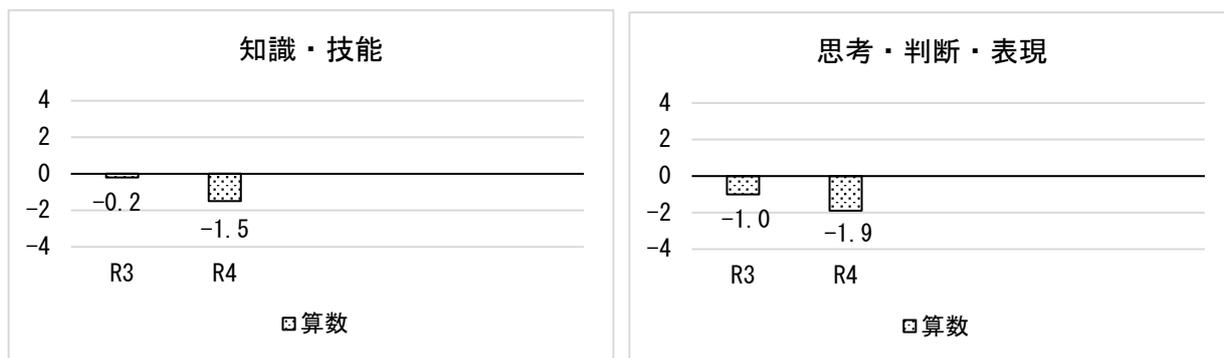
〔グラフⅡ-25〕 学習指導要領の領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H29~H31)



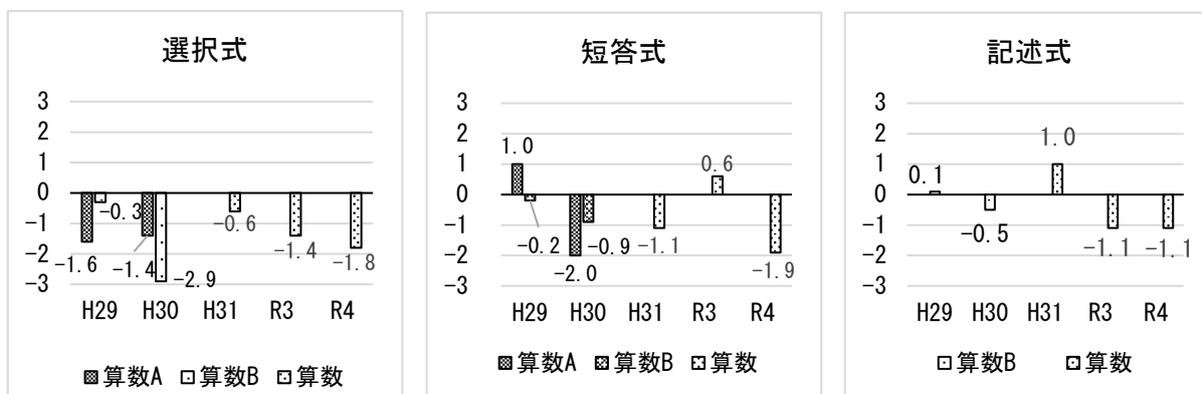
〔グラフⅡ-26〕 学習指導要領の領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R3~)



〔グラフⅡ-27〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）



〔グラフⅡ-28〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆全ての領域において、平均正答率は全国を下回っている。(グラフⅡ-26)

◆評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。

(グラフⅡ-27)

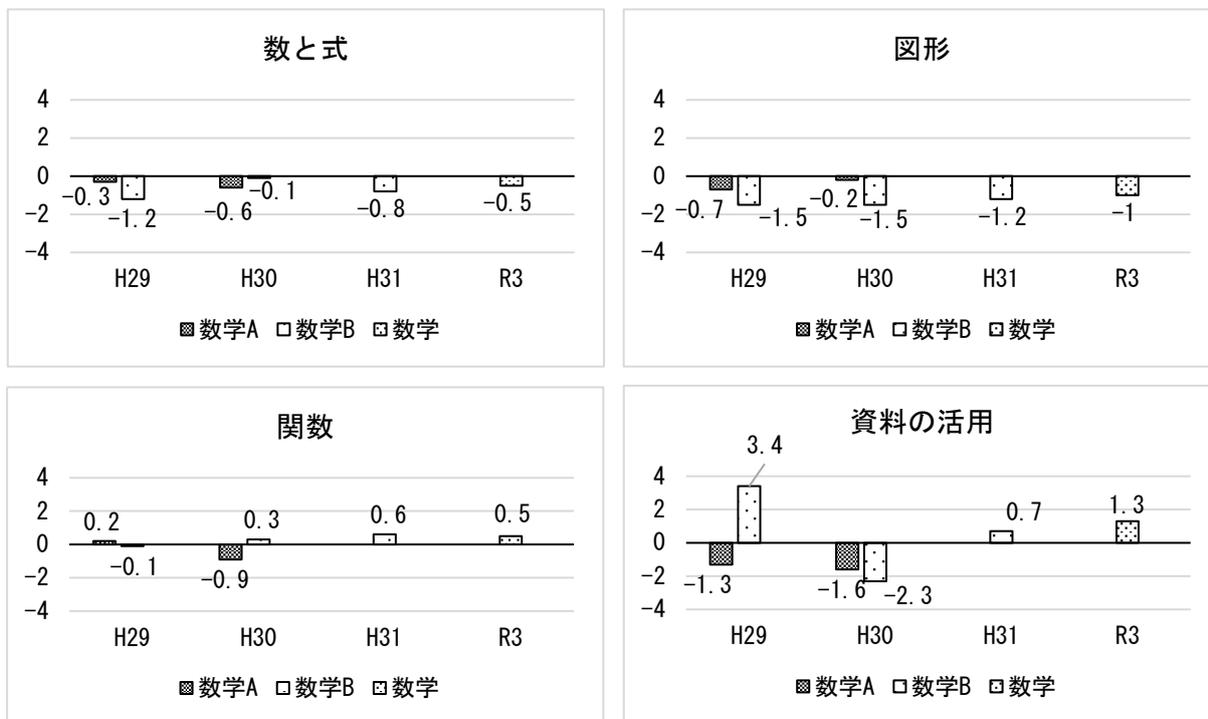
◆問題形式ごとの平均正答率は、全て全国を下回っている。(グラフⅡ-28)

ク 中学校数学の経年変化と分析

(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

算数と同様に、数学についても、領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

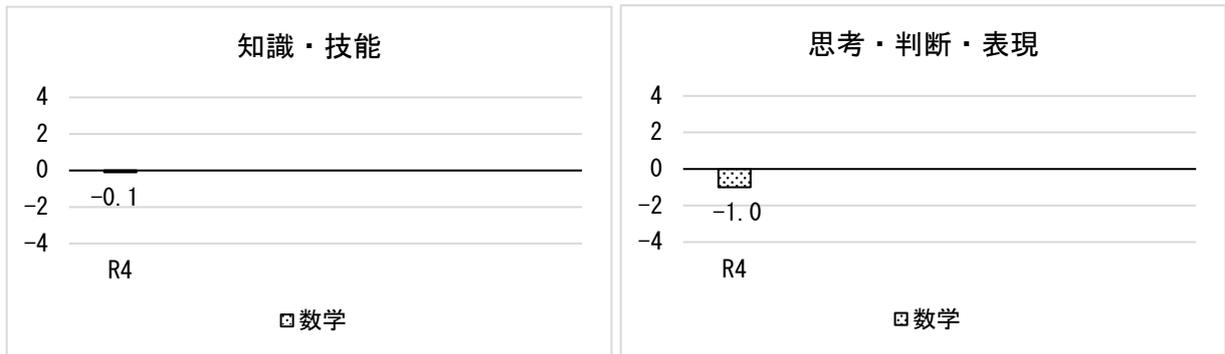
[グラフⅡ-29] 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H29~R3)



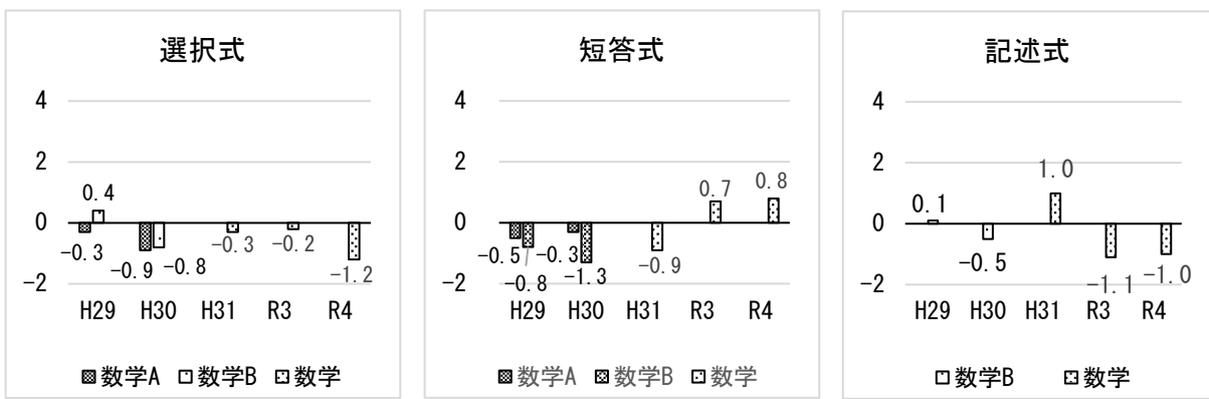
[グラフⅡ-30] 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4~)



[グラフⅡ-31] 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4~)



[グラフⅡ-32] 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4~)



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇数と式の領域の平均正答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-30)

◆知識・技能, 思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-31)

◆図形, 関数, データの活用の領域の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-31)

◇短答式の平均正答率は、令和3年度に続き全国を上回っている。(グラフⅡ-32)

2 質問紙調査の結果と分析

(1) 令和4年度 質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と、学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類^(※1)し、それぞれを〔児童生徒〕、〔学校運営〕に整理し、領域ごとに全国を100としてスコア化^(※2)した。

〔児童生徒〕、〔学校運営〕の領域は次のとおりである。

〔児童生徒〕 6領域

- 学習に対する興味・関心
 - ・国語への関心等
 - ・算数(数学)への関心等
 - ・理科への関心等
- 規範意識・自己有用感
 - ・規範意識
 - ・自己有用感
- 生活習慣・学習習慣
 - ・生活習慣・学習習慣

〔学校運営〕 8領域

- 教科指導
 - ・国語科の指導方法
 - ・算数(数学)科の指導方法
 - ・理科の指導方法
- 授業改善・生徒指導
 - ・授業改善
 - ・生徒指導
- 学校経営
 - ・学校運営
 - ・教職員の資質能力の向上
 - ・家庭や地域との連携等

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に沿う。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして、事務局でスコアを算出した。

ア 小学校調査

(ア) 結果

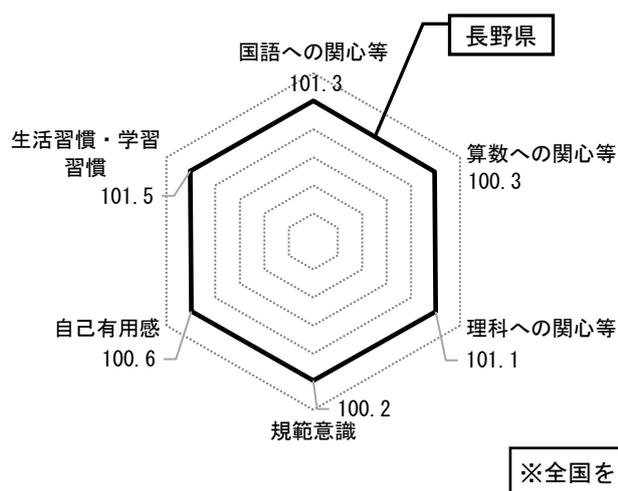
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	101.3
	算数への関心等	100.3
	理科への関心等	101.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.2
	自己有用感	100.6
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.5

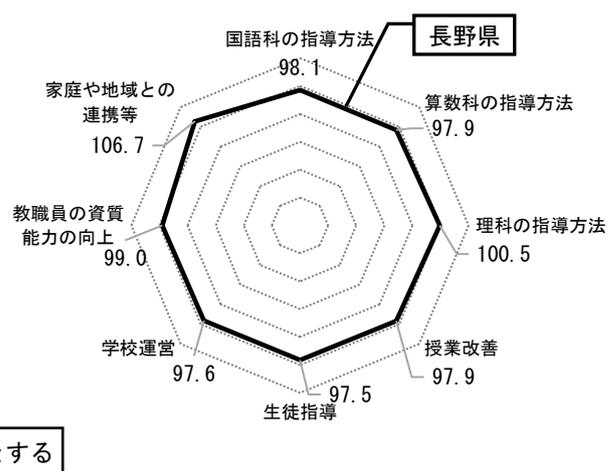
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	98.1
	算数科の指導方法	97.9
	理科の指導方法	100.5
授業改善	授業改善	97.9
生徒指導	生徒指導	97.5
学校経営	学校運営	97.6
	教職員の資質能力の向上	99.0
	家庭や地域との連携等	106.7

〔グラフⅡ-33〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-34〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇〔児童〕のスコアは、いずれの領域において全国を上回っている。(表Ⅱ-7, グラフⅡ-33)

◇〔学校運営〕では、理科の指導方法が0.5ポイント、家庭や地域との連携等が6.7ポイント全国平均を上回っている。(表Ⅱ-8, グラフⅡ-34)

◆〔学校運営〕では、国語及び数学の指導方法、授業改善、生徒指導、学校運営、教職員の資質能力の向上が全国平均を下回っている。(表Ⅱ-8, グラフⅡ-34)

イ 中学校調査

(ア) 結果

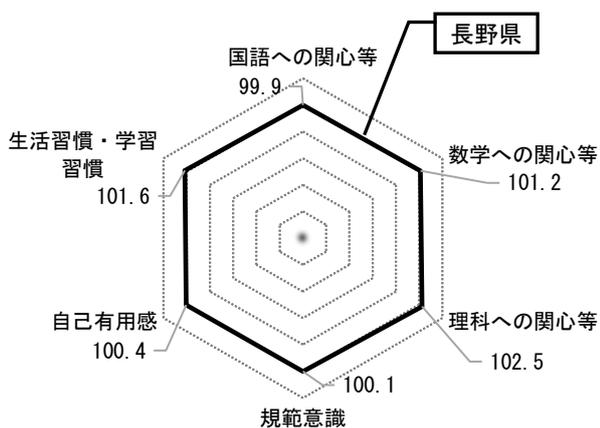
〔表Ⅱ-9〕 [生徒] のスコア (中学校)

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	99.9
	数学への関心等	101.2
	理科への関心等	102.5
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.1
	自己有用感	100.4
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・ 学習習慣	101.6

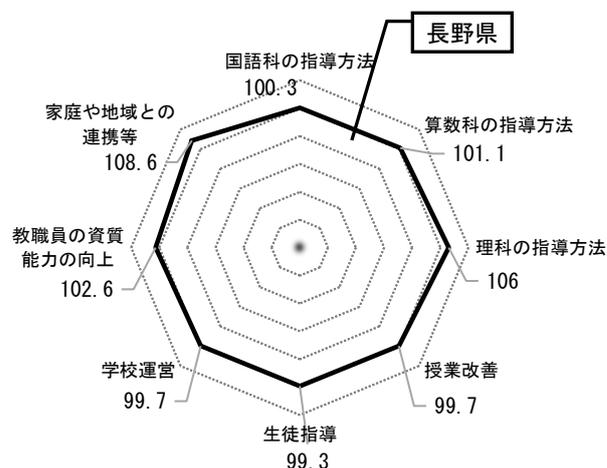
〔表Ⅱ-10〕 [学校運営] のスコア (中学校)

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	100.3
	算数科の指導方法	101.1
	理科の指導方法	106.0
授業改善	授業改善	99.7
生徒指導	生徒指導	99.3
学校経営	学校運営	99.7
	教職員の資質能力の向上	102.6
	家庭や地域との連携等	108.6

〔グラフⅡ-35〕 [生徒] のスコア (中学校)



〔グラフⅡ-36〕 [学校運営] のスコア (中学校)



※全国を100とする

(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [生徒] のスコアは、全ての項目において全国と同程度、または、全国を上回っている。

(表Ⅱ-9, グラフⅡ-35)

◇ [学校運営] の教科指導では、全て全国平均を上回っている。特に、理科の指導方法では6ポイント上回っている。(表Ⅱ-10, グラフⅡ-36)

◇ [学校運営] の教職員の資質能力の向上と家庭や地域との連携等でも全国平均を上回っている。特に、家庭や地域との連携等は8.6ポイント上回っている。

(表Ⅱ-10, グラフⅡ-36)

◆ [学校運営] の授業改善、生徒指導、学校運営が、全国をやや下回っている。

(表Ⅱ-10, グラフⅡ-36)

(2) 過去3回(平成31年度～令和4年度)の調査結果の経年変化と分析

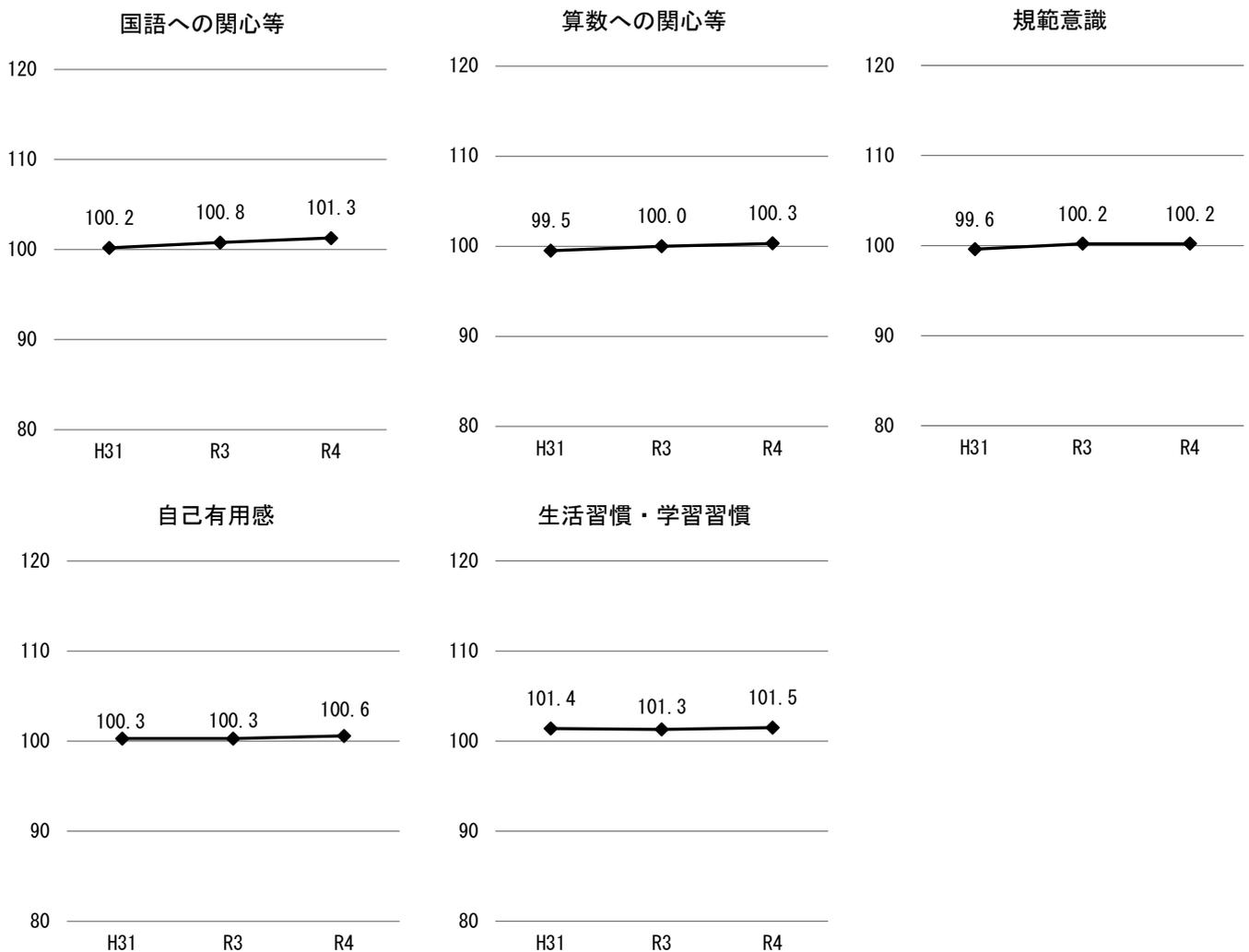
ア 小学校調査

(ア) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

領域名		H31	R2	R3	R4
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	100.2		100.8	101.3
	算数への関心等	99.5		100.0	100.3
	理科への関心等				101.1
規範意識・ 自己有用感	規範意識	99.6		100.2	100.2
	自己有用感	100.3		100.3	100.6
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.4		101.3	101.5

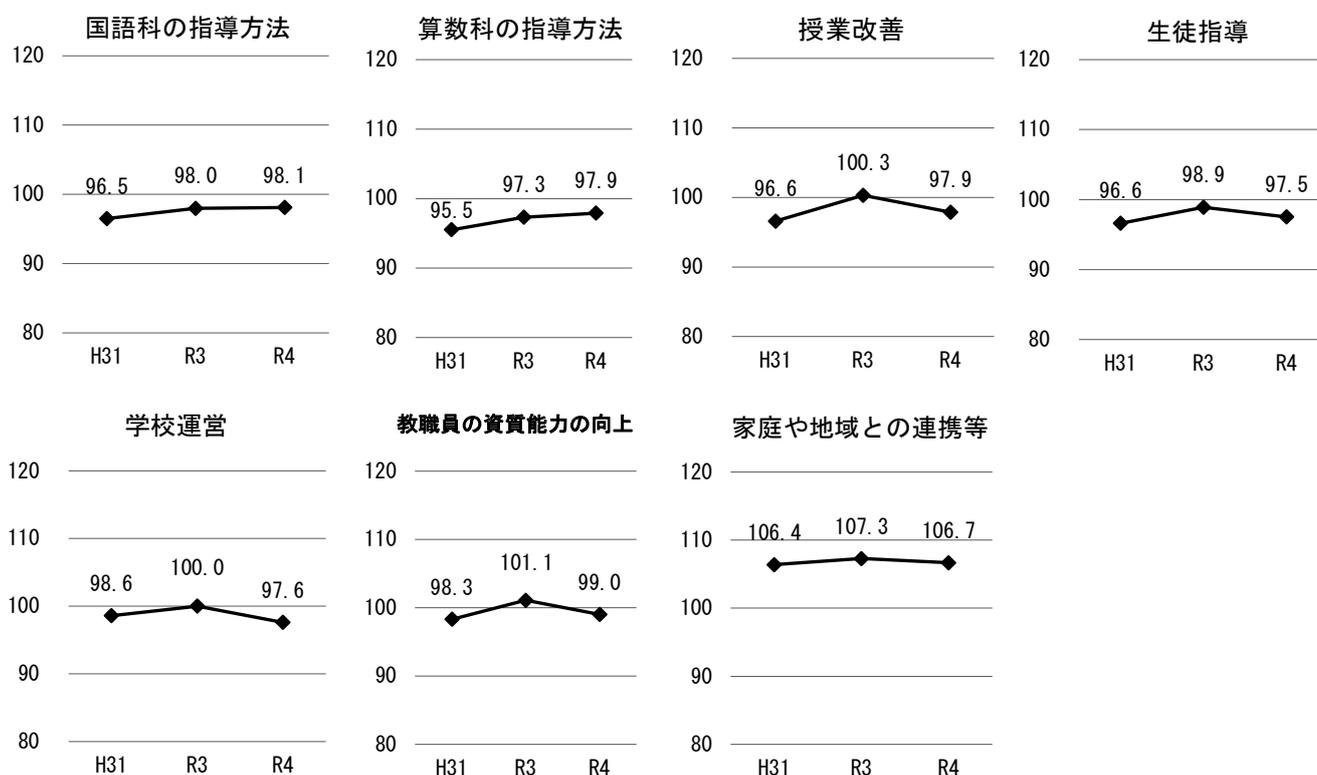
〔グラフⅡ-37〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		H31	R2	R3	R4
教科指導	国語科の指導方法	96.5		98.0	98.1
	算数科の指導方法	95.5		97.3	97.9
	理科の指導方法				100.5
授業改善 生徒指導	授業改善	96.6		100.3	97.9
	生徒指導	96.6		98.9	97.5
学校経営	学校運営	98.6		100.0	97.6
	教職員の資質能力の向上	98.3		101.1	99.0
	家庭や地域との連携等	106.4		107.3	106.7

〔グラフⅡ-38〕〔学校運営〕のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

- ◇ [児童] の規範意識は令和3年度と同値、規範意識以外は平成31年度、令和3年度よりやや増加している。(表Ⅱ-11, グラフⅡ-37)
- ◇ [学校運営] の家庭や地域との連携等は、平成31年度から継続して全国を6ポイント以上上回っている。(表Ⅱ-12, グラフⅡ-38)
- ◆ [学校運営] の授業改善、学校運営、教職員の資質能力の向上は、令和3年度、全国と同値あるいは上回っていたが、令和4年度は減少し全国平均を下回っている。

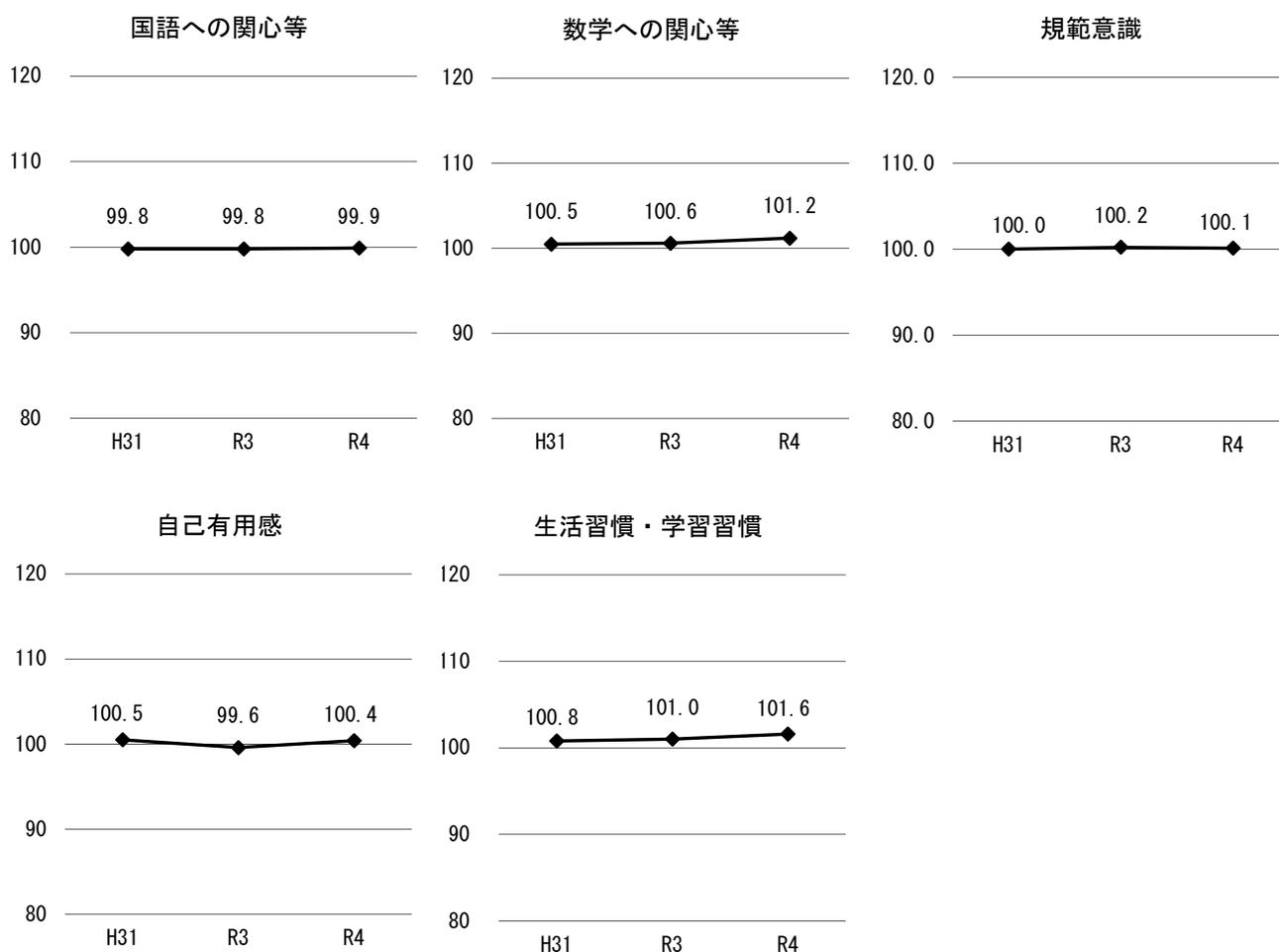
(表Ⅱ-12, グラフⅡ-38)

イ 中学校調査
 (ア) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 [生徒] のスコアの経年変化

領域名		H31	R2	R3	R4
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	99.8		99.8	99.9
	数学への関心等	100.5		100.6	101.2
	理科への関心等				102.5
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.0		100.2	100.1
	自己有用感	100.5		99.6	100.4
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	100.8		101.0	101.6

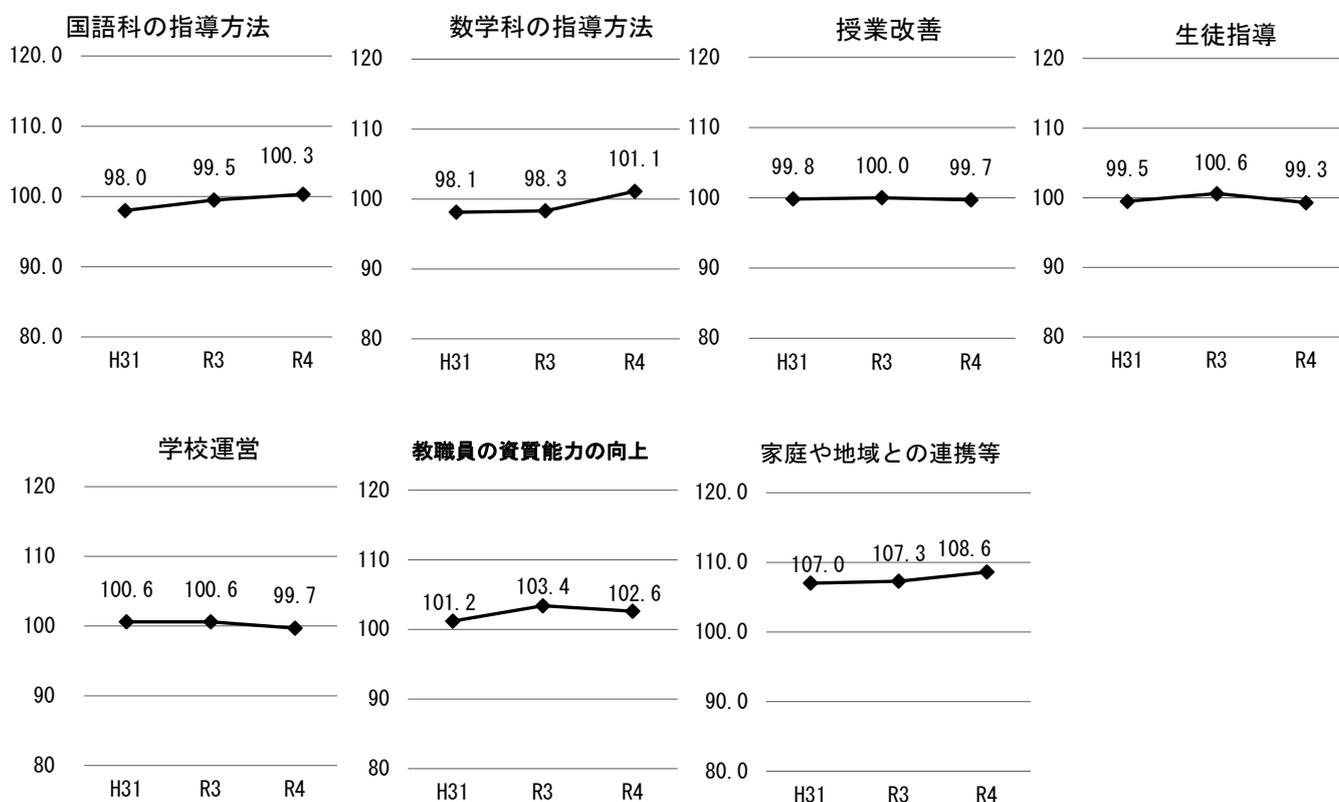
〔グラフⅡ-39〕 [生徒] のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		H31	R2	R3	R4
教科指導	国語科の指導方法	98.0		99.5	100.3
	数学科の指導方法	98.1		98.3	101.1
	理科の指導方法				106.0
授業改善 生徒指導	授業改善	99.8		100.0	99.7
	生徒指導	99.5		100.6	99.3
学校経営	学校運営	100.6		100.6	99.7
	教職員の資質能力の向上	101.2		103.4	102.6
	家庭や地域との連携等	107.0		107.3	108.6

〔グラフⅡ-40〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [生徒] のスコアは、全ての項目において全国と同程度または全国を上回っており、規範意識以外は令和3年度より増加している。(表Ⅱ-13, グラフⅡ-39)

◇ [学校運営] の家庭や地域との連携等は、平成31年度から継続して全国を7ポイント以上上回っている。(表Ⅱ-14, グラフⅡ-40)

◇ [学校運営] の国語科及び数学科の指導方法は、上昇傾向が見られる。

(表Ⅱ-14, グラフⅡ-40)

◆ [学校運営] の授業改善, 生徒指導, 学校運営は、令和3年度は全国と同値または上回っていたが、令和4年度は減少し全国を下回っている。(表Ⅱ-14, グラフⅡ-40)

Ⅲ 全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち、「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果」で取り上げられている項目と関連させて、長野県の結果をまとめた。

〔調査概要〕

調査実施日 令和4年4月19日（火）

調査事項 ○児童生徒に対する調査

- ・ 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）
- ・ 質問紙調査（児童生徒質問紙調査）
 - ※児童生徒質問紙調査は，一部の学校でオンライン実施。（※小学校39校，中学校19校で実施）

○学校に対する調査

- ・ 質問紙調査（学校質問紙調査）

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	4月19日(火)に調査を実施した児童数	4月19日(火)に調査を実施した学校数	4月19日(火)に調査を実施した児童数	4月19日(火)に調査を実施した学校数
長野県(公立)	15,087人	350校	15,529人	187校
全国(公立)	965,761人	18,671校	892,585人	9,348校

※調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

〔教科の調査結果〕

長野県（公立）の平均正答数・平均正答率 [上段]：平均正答数／設定問題数 [下段]：平均正答率

校種	年度 教科	令和4年度		年度 教科	令和3年度（理科 平成30年度）	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.2／14問 66%	9.2／14問 65.6%	国語	8.9／14問 63%	9.1／14問 64.7%
	算数	9.8／16問 62%	10.1／16問 63.2%	算数	11.1／16問 70%	11.2／16問 70.2%
	理科	10.8／17問 63%	10.8／17問 63.3%	理科	9.8／16問 61%	9.6／16問 60.3%
中学校	国語	9.6／14問 68%	9.7／14問 69.0%	国語	9.1／14問 65%	9.0／14問 64.6%
	数学	7.1／14問 51%	7.2／14問 51.4%	数学	9.1／16問 57%	9.1／16問 57.2%
	理科	10.6／21問 50%	10.4／21問 49.3%	理科	17.9／27問 66%	17.9／27問 66.1%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

1 教科に関する調査結果

(注) □…全国の平均正答率を上回る主な設問
 ■…全国の平均正答率を下回る主な設問

小学校国語

□学年別漢字配当表に示されている漢字を文
 の中で正しく使う

【文章2】の中の「部イ」を、漢字を使って書き
 直す (はんせい)
 【大問3 設問三イ】66.0%(全国比 +7.3)

□登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述
 を基に捉える

「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択
 する
 【大問2 設問一(1)】69.9%(全国比 +1.5)

□文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の
 文章のよいところを見付ける

【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】の
 よさを書く
 【大問3 設問二】39.1%(全国比 +1.4)

■漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

(一) から (二) に書き直した際、気を付けた
 内容として適切なものを選択する
 【大問3 設問四】73.9%(全国比 -4.0)

■言葉には、相手とのつながりをつくる働きが
 あることを捉える

【話し合いの様子の一部】における谷原さんや
 中村さんの発言の理由として適切なものを選択
 する
 【大問1 設問二】66.8%(全国比 -2.0)

■文章全体の構成や書き表し方などに着目し
 て、文や文章を整える

【文章2】の「-----」の部分で、どのような
 ことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択
 する
 【大問3 設問一】58.1%(全国比 -1.1)

中学校国語

□事象や行為、心情を表す語句について理解
 する

「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択
 する
 【大問3 設問二】85.7%(全国比 +1.7)

□場面と場面、場面と描写などを結び付けて、
 内容を解釈する

「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、
 話の展開を取り上げて書く
 【大問3 設問四】75.0%(全国比 +1.2)

□漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方
 を理解する

書き直した文字の「と」の書き方について説明した
 ものとして適切なものを選択する
 【大問4 設問三】81.5%(全国比 +0.4)

■表現の技法について理解する

「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている
 表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使わ
 れているものを選択する
 【大問3 設問一】50.1%(全国比 -2.4)

■論理の展開などに注意して聞く

話の進め方のよさを具体的に説明したものとして
 適切なものを選択する
 【大問1 設問二】63.3%(全国比 -1.8)

■行書の特徴を理解する

行書の特徴を踏まえた書き方について説明した
 ものとして適切なものを選択する
 【大問4 設問一】37.7%(全国比 -1.7)

小学校算数

□示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる

〔カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く
【大問1 設問(3)】77.0%(全国比 +1.0)〕

□図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

〔長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く
【大問4 設問(2)】83.7%(全国比 +0.5)〕

□目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる

〔1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ
【大問3 設問(3)】67.3%(全国比 +0.5)〕

■示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる

〔 85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ
【大問1 設問(4)】29.1%(全国比 -5.7)〕

■百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる

〔果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く
【大問2 設問(2)】60.0%(全国比 -4.6)〕

■百分率で表された割合を分数で表すことができる

〔果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す
【大問2 設問(1)】67.8%(全国比 -3.3)〕

中学校数学

□自然数を素数の積で表すことができる

〔42を素因数分解する
【大問1】58.8%(全国比 +6.6)〕

□多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している

〔容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ
【大問5】84.4%(全国比 +1.1)〕

□与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

〔与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く
【大問8 設問(1)】55.6%(全国比 +1.0)〕

■一次関数の変化の割合の意味を理解している

〔変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ
【大問4】35.1%(全国比 -2.8)〕

■反例の意味を理解している

〔ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ
【大問3】42.7%(全国比 -2.2)〕

■簡単な連立二元一次方程式を解くことができる

〔連立二元一次方程式を解く
$$\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$$

【大問2】72.7%(全国比 -1.8)〕

小学校理科

□実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

〔問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く
【大問3 設問(4)】38.1%(全国比 +3.0)〕

□メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている

〔水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ
【大問2 設問(2)】72.2%(全国比 +2.2)〕

□自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる

〔鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く
【大問3 設問(3)】70.5%(全国比 +1.6)〕

■水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している

〔鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く
【大問4 設問(4)】59.5%(全国比 -2.5)〕

■昆虫の体のつくりを理解している

〔昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ
【大問1 設問(3)】71.6%(全国比 -1.5)〕

■問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している

〔実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ
【大問3 設問(2)】73.2%(全国比 -1.2)〕

中学校理科

□日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる

〔日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する
【大問1 設問(1)】50.5%(全国比 +6.3)〕

□アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる

〔アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する
【大問8 設問(1)】58.8%(全国比 +3.6)〕

□考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる

〔考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する
【大問5 設問(3)】46.4%(全国比 +3.1)〕

■力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる

〔おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する
【大問5 設問(1)】13.9%(全国比 -1.4)〕

■液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる

〔液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する
【大問7 設問(1)】34.6%(全国比 -1.3)〕

■未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる

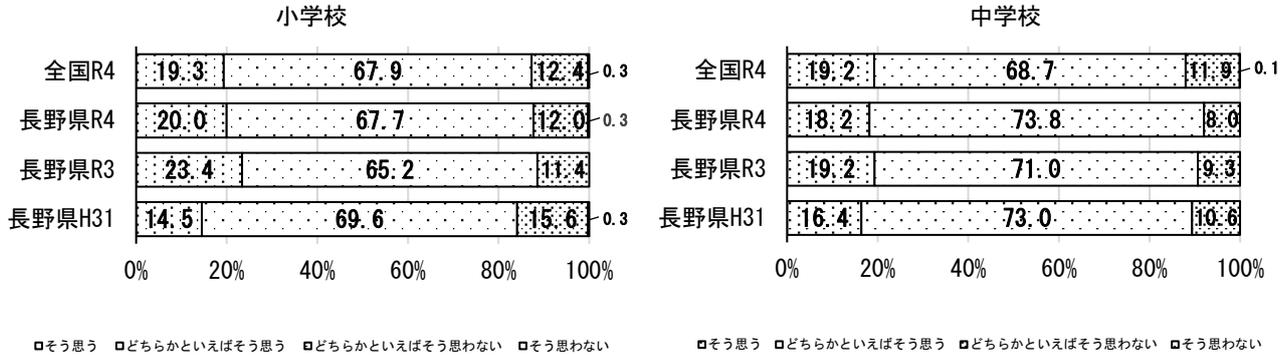
〔生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する
【大問8 設問(3)】38.3%(全国比 -0.9)〕

※本頁以降のグラフについて、「その他」や「無回答」の割合は極小値のため、見やすさの観点から表示していない。
そのため、各グラフの合計値が100にならない場合もある。

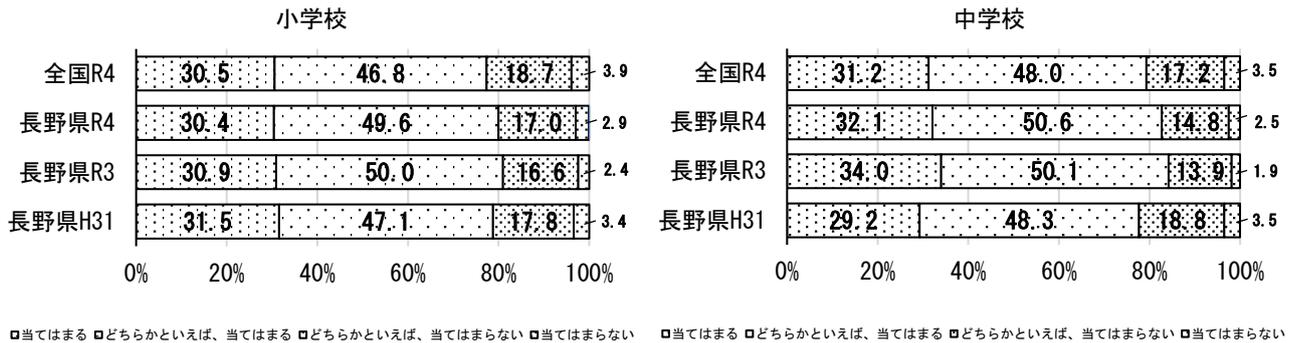
2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（1）

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」について肯定的に回答した割合は、令和3年度より小学校では減少し、中学校では増加している。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに85%を超え、全国平均を上回っている。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

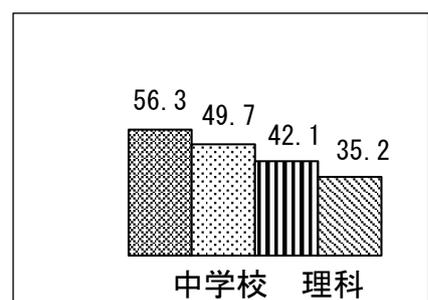
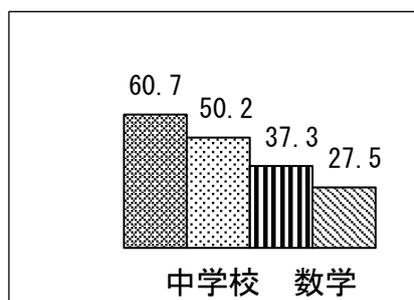
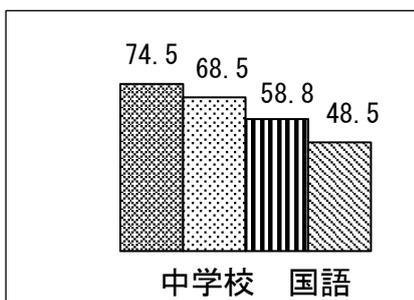
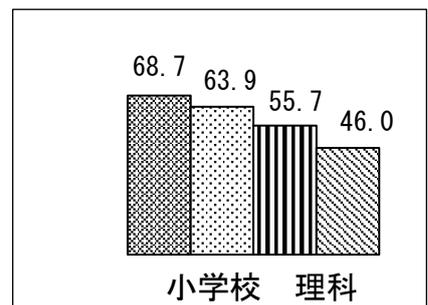
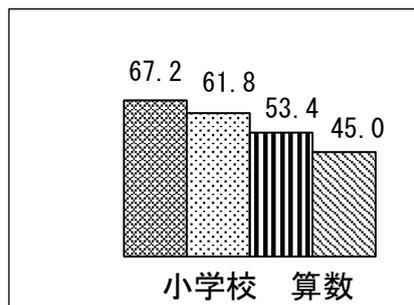
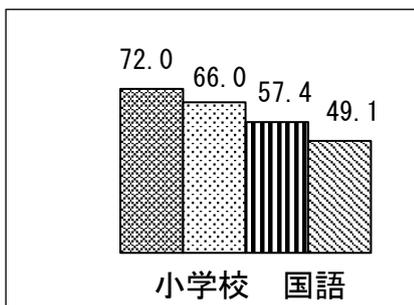
【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



【児童生徒質問紙】5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）

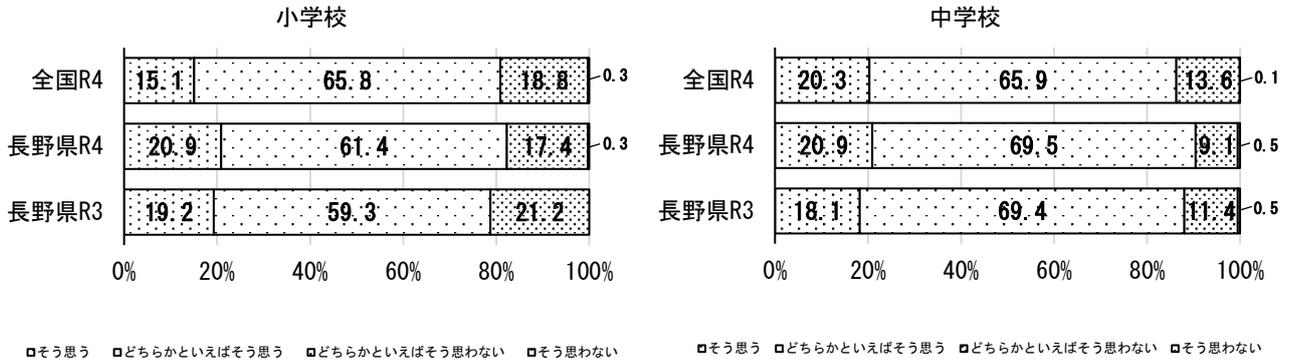


■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

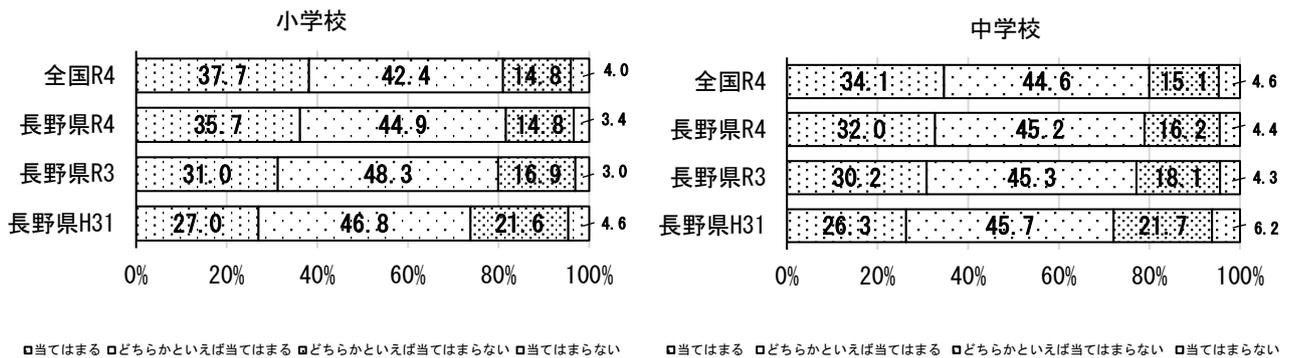
○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」について肯定的に回答した割合は、令和3年度より小学校では減少し、中学校では増加している。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに85%を超え、全国平均を上回っている。

○この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

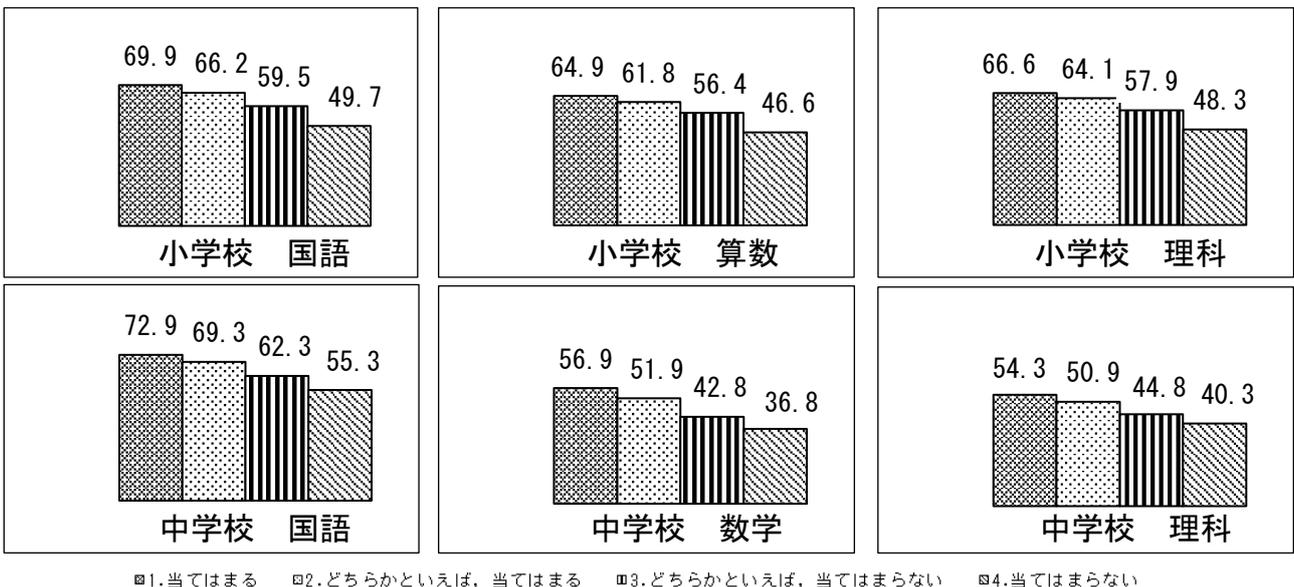
【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



【児童生徒質問紙】 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（％）

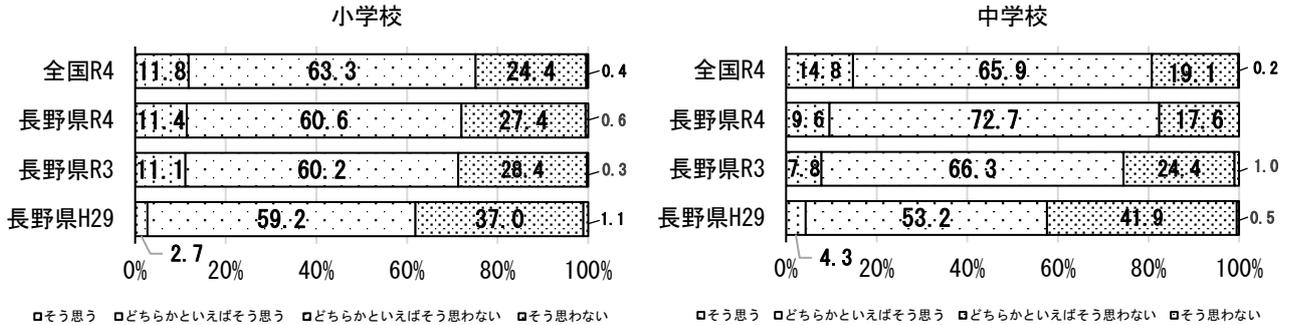


□1.当てはまる □2.どちらかといえば、当てはまる □3.どちらかといえば、当てはまらない □4.当てはまらない

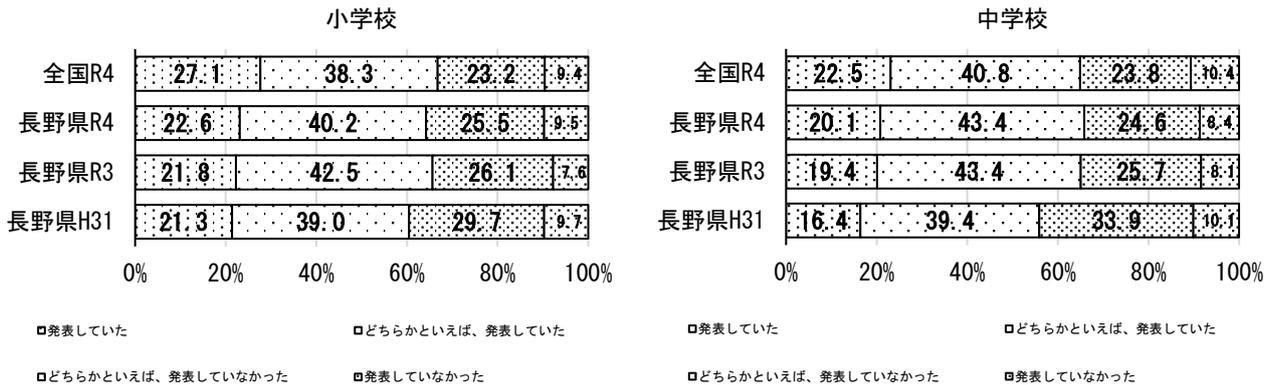
3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況（2）

○「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか」について肯定的に回答した割合は、令和3年度と比べて特に中学校で増加している。また、「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発表していたか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに60%程度である。
○この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

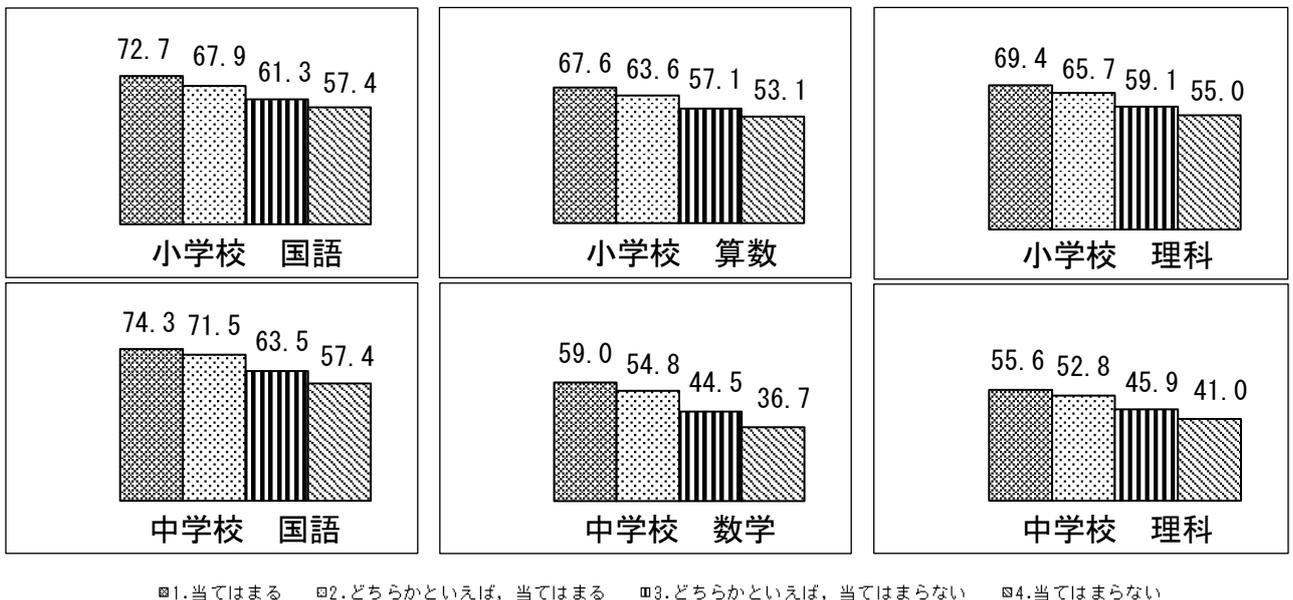
【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



【児童生徒質問紙】5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

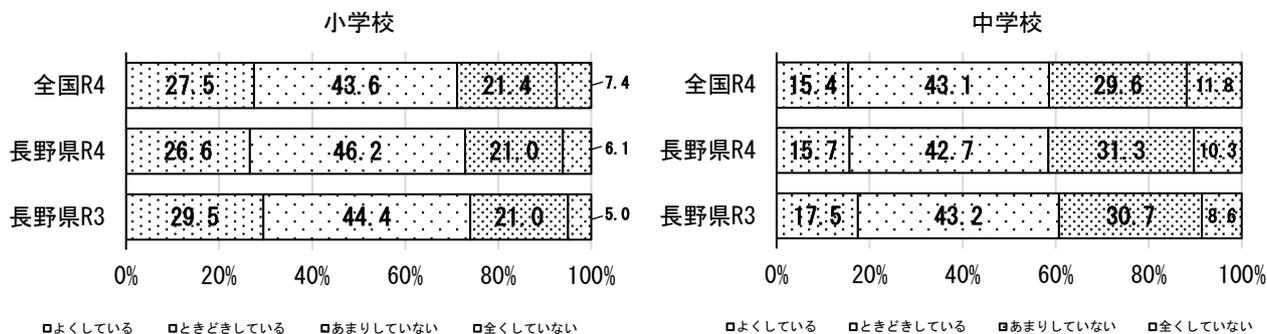


児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）

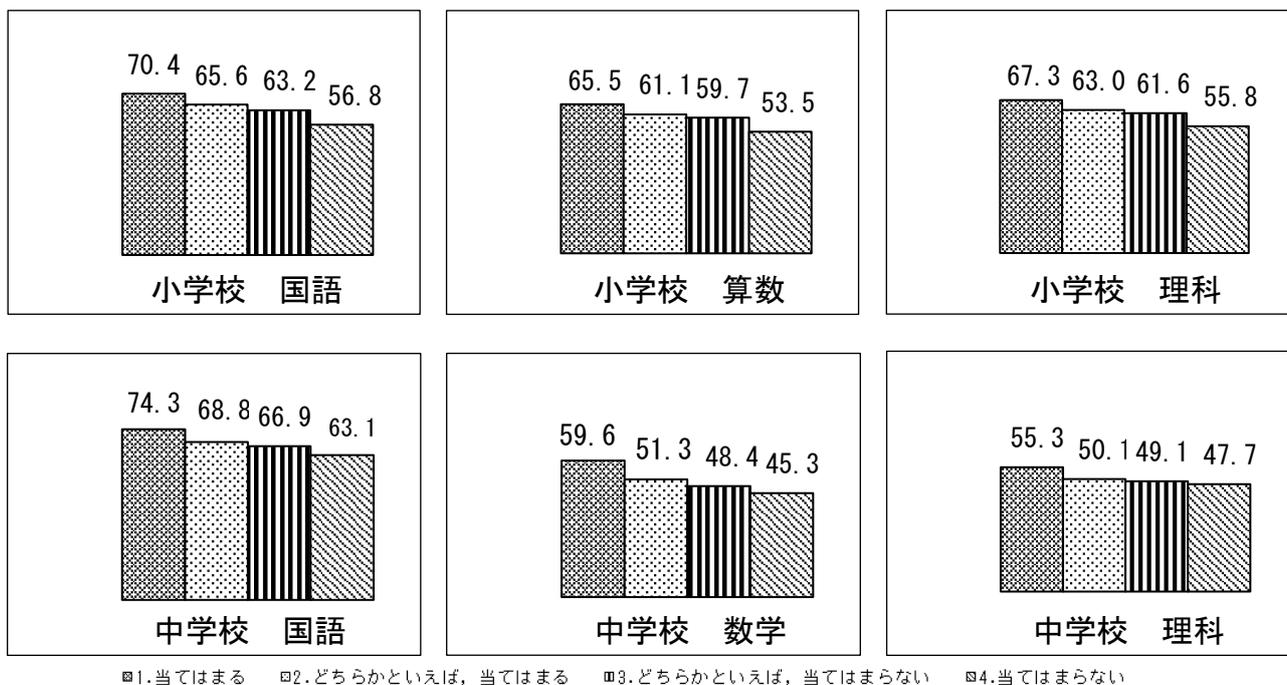


- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」について肯定的に回答した割合は、児童生徒ともに令和3年度より減少しており、児童は70%程度、生徒は60%程度である。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

【児童生徒質問紙】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）



4 教科に関する質問紙調査の状況 国語

(1) 小学校国語 児童の興味関心と小学校の指導状況

○児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、「国語の勉強は好きか」では令和3年度より上回っているが、それ以外の項目は横ばいの傾向である。全ての項目において全国平均を上回っている。

○小学校の指導状況について、肯定的に回答した小学校の割合は、令和3年度より増加傾向である。

[児童の興味関心]

[小学校の指導状況]

※H31 なし

国語の勉強は好きですか				
全国R4	23.4	35.8	26.3	14.3
長野県R4	24.0	40.5	25.4	10.0
長野県R3	22.4	39.4	27.4	10.7
長野県H31	26.7	40.1	24.2	9.1

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか				
全国R4	69.3	24.0	4.5	2.0
長野県R4	68.7	25.4	4.3	1.6
長野県R3	69.0	24.7	4.6	1.7
長野県H31	66.2	26.7	5.3	1.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか				
全国R4	39.5	44.5	12.4	3.5
長野県R4	39.1	46.9	11.1	2.8
長野県R3	38.5	47.6	11.5	2.4
長野県H31	39.8	46.2	11.7	2.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか				
全国R4	65.5	26.3	6.4	2.4
長野県R4	66.5	26.7	5.4	1.7
長野県R3	65.5	27.3	5.9	1.6
長野県H31	62.9	28.7	6.4	1.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか				
全国R4	29.0	65.4	5.4	0.6
長野県R4	23.7	68.0	8.3	0.6
長野県R3	20.9	68.0	10.3	0.6

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか				
全国R4	34.4	61.0	4.9	0.3
長野県R4	29.1	63.1	7.7	0.3
長野県R3	27.6	64.1	8.1	0.3

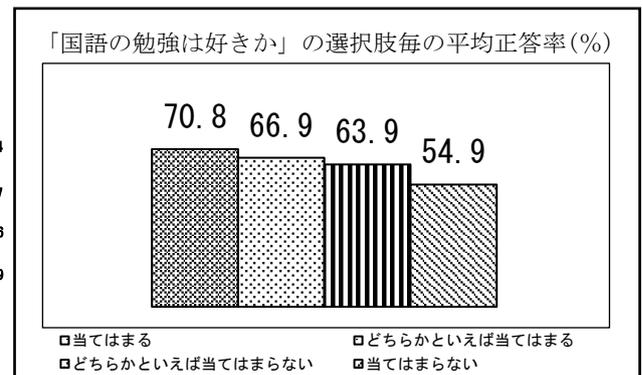
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか				
全国R4	29.2	63.5	7.1	0.3
長野県R4	23.4	68.3	8.3	0.3
長野県R3	24.2	64.3	11.1	0.3

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか				
全国R4	34.4	61.2	4.3	0.8
長野県R4	31.7	64.0	4.3	0.8
長野県R3	31.5	61.8	5.6	0.8

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない



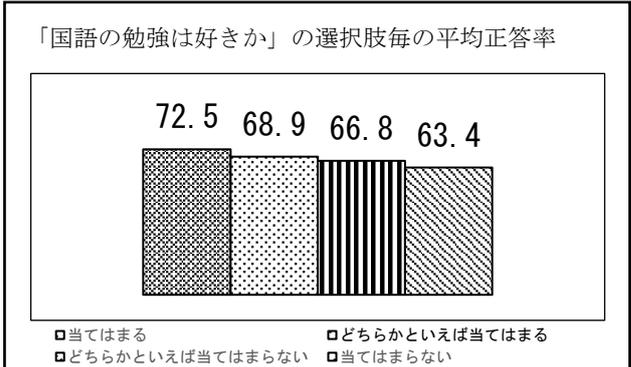
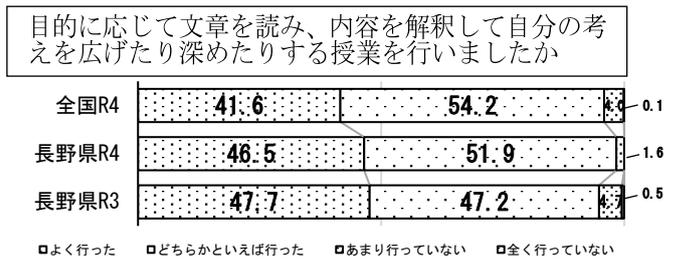
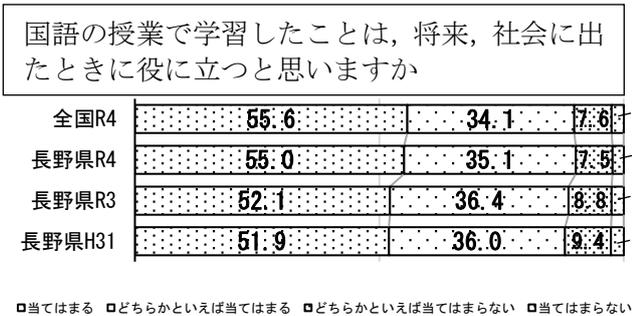
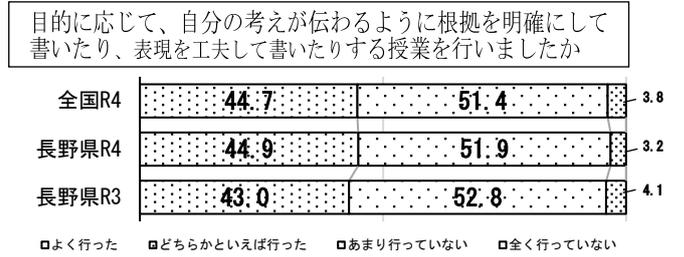
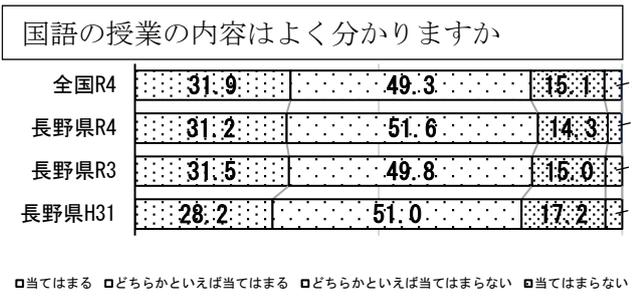
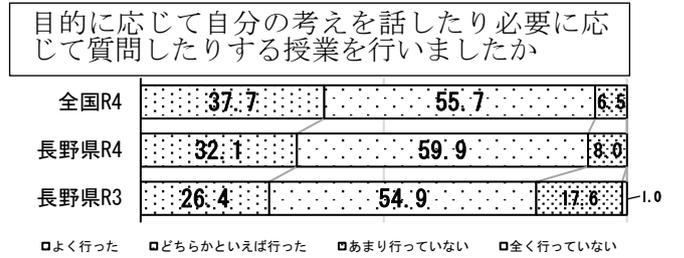
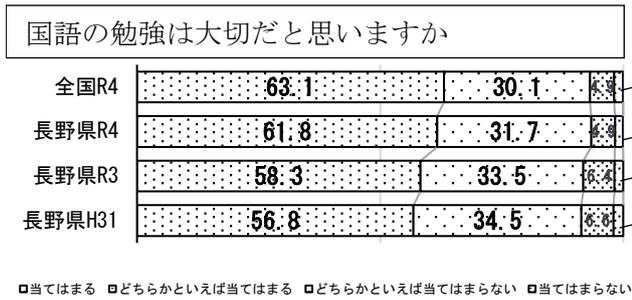
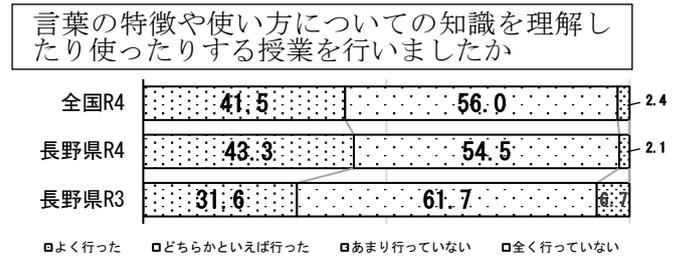
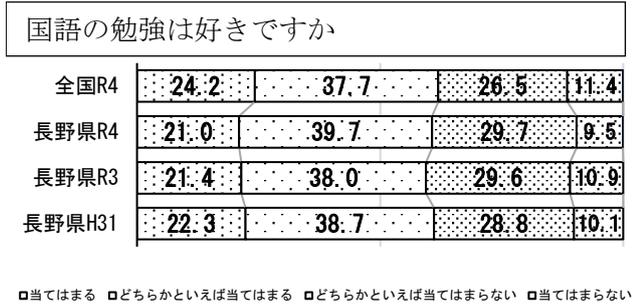
□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

(2) 中学校国語 生徒の興味関心と学校の指導状況

- 生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての質問項目において令和3年度より増加しており、特に「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」は90%を上回っている。
- 中学校の指導状況について、肯定的に回答した中学校の割合は、全ての質問項目において令和3年度より増加している。特に「目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか」は令和3年度より10ポイント以上上回っている。
- 「国語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔生徒の興味関心〕

〔中学校の指導状況〕 ※H31なし



5 教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学

(1) 小学校算数 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての質問項目において、全国を上回っている。
- 「算数の勉強が好き」「算数の授業の内容はよく分かりますか」について肯定的に回答している児童の割合は、令和3年度より減少している。
- 学校における指導状況について、いずれの項目も肯定的に回答した学校の割合は全国よりも下回っており、特に「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」については、10ポイント差がある。
- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[児童の興味関心]

[小学校の指導状況]

算数の勉強は好きですか

全国R4	36.2	26.3	20.3	17.1
長野県R4	34.7	29.3	22.4	13.6
長野県R3	38.6	29.7	20.3	11.4
長野県H31	37.4	31.9	20.1	10.6

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の勉強は大切だと思いますか

全国R4	76.6	17.6	3.7	2.0
長野県R4	75.9	19.0	3.4	1.7
長野県R3	75.4	18.5	4.5	1.5
長野県H31	73.5	20.1	4.4	1.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業の内容はよく分かりますか

全国R4	45.6	35.6	13.7	5.1
長野県R4	42.1	40.0	13.6	4.1
長野県R3	49.1	35.4	12.1	3.4
長野県H31	45.0	37.8	13.5	3.6

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R4	74.7	18.6	4.6	2.1
長野県R4	75.4	18.7	4.1	1.6
長野県R3	72.8	20.2	5.5	1.6
長野県H31	71.6	21.2	5.4	1.8

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R4	17.9	66.4	15.5	0.1
長野県R4	15.4	58.9	25.7	0.6
長野県R3	15.6	62.1	21.7	0.6
長野県H31	13.7	64.1	22.2	0.6
長野県H30	10.8	59.9	28.7	0.6

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか

全国R4	29.7	62.7	7.5	0.1
長野県R4	26.9	65.4	7.4	0.1
長野県R3	30.1	62.1	7.8	0.1

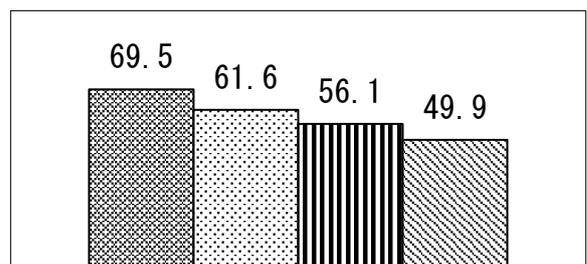
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童にそのわけを理解できるように工夫していましたか

全国R4	40.8	56.3	2.7	0.1
長野県R4	37.1	59.1	3.7	0.1
長野県R3	40.9	53.5	5.3	0.1

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

「算数の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

(2) 中学校数学 生徒の興味関心と中学校の指導状況

○生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての質問項目において、全国を上回っている。「数学の勉強が好き」以外の質問に肯定的に回答した生徒の割合は、令和3年度より増加している。

○学校における指導状況について、「実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか」に肯定的に回答した学校の割合は、令和3年度を5.8ポイント上回っている。

○「数学の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[生徒の興味・関心]

数学の勉強は好きですか

全国R4	29.9	28.2	24.3	17.5
長野県R4	28.7	29.7	26.4	15.2
長野県R3	29.9	29.3	24.8	15.8
長野県H31	29.2	28.5	26.3	16.0

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の勉強は大切だと思いますか

全国R4	52.1	34.5	9.8	3.4
長野県R4	51.8	36.4	9.0	2.7
長野県R3	48.4	37.1	10.9	3.5
長野県H31	48.4	36.7	11.0	3.8

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業の内容はよく分かりますか

全国R4	36.1	40.1	17.4	6.3
長野県R4	38.2	41.7	15.5	4.8
長野県R3	36.4	40.1	17.9	5.4
長野県H31	34.7	40.9	18.2	6.0

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R4	40.7	35.8	16.6	6.8
長野県R4	41.0	36.9	16.3	5.7
長野県R3	37.3	38.5	17.8	6.1
長野県H31	40.0	37.4	16.4	6.1

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

[中学校の指導状況]

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R4	17.5	65.3	16.9	0.2
長野県R4	19.8	66.3	13.9	
長野県R3	18.1	62.2	19.7	
長野県H31	21.2	59.8	19.0	

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか

全国R4	17.8	60.9	20.7	0.5
長野県R4	20.3	62.6	16.6	0.5
長野県R3	21.2	61.1	17.1	0.5

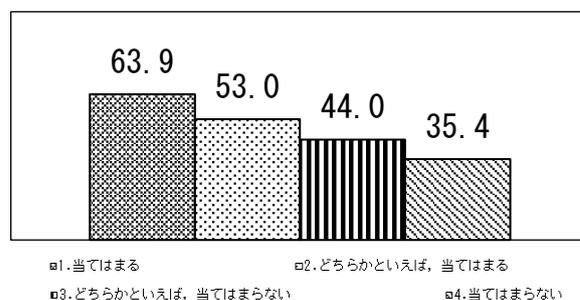
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか

全国R4	42.7	54.3	2.9
長野県R4	40.1	56.7	3.2
長野県R3	39.4	56.5	4.1

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行っていない □全く行っていない

「数学の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



6 教科に関する質問紙調査の状況 理科

(1) 小学校理科 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、全ての項目で肯定的に回答した児童の割合は全国を上回っている。
- 「理科の勉強は大切だと思う」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」は平成30年度より増加している。
- 学校における指導状況について「実生活における事象との関連を図った授業を行った」「自ら考えた予想をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った」「観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った」は増加傾向にある。
- 観察や実験をする授業を週1回以上行っていると回答した学校は全国を20ポイント程度上回っているが、平成27年度、平成30年度を下回っている。
- 「理科の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[児童の興味関心]

[小学校の指導状況]

理科の勉強は好きですか

全国R4	49.3	30.4	13.3	6.8	
長野県R4	51.4	30.4	12.8		5.2
長野県H30	52.8	31.8	11.5		3.8
長野県H27	54.7	29.6	11.2		4.3

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の勉強は大切だと思いますか

全国R4	57.4	29.1	10.1		3.3
長野県R4	58.3	29.7	9.3		2.6
長野県H30	55.6	30.8	10.7		2.8
長野県H27	59.1	28.1	9.9		2.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の授業の内容はよく分かりますか

全国R4	54.9	33.6	8.6		2.7
長野県R4	54.9	34.1	8.7		2.2
長野県H30	55.1	34.9	8.0		2.0
長野県H27	54.8	33.0	9.5		2.6

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R4	45.5	31.7	16.6	6.0
長野県R4	46.8	32.6	15.4	5.0
長野県H30	39.5	34.4	19.7	6.3
長野県H27	43.2	31.2	18.6	6.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか。

全国R4	28.1	65.8	5.9
長野県R4	26.0	67.4	6.6

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。

全国R4	30.9	63.3	5.6	
長野県R4	28.3	64.6	7.3	
長野県H30	17.1	63.0	18.8	0.6
長野県H27	15.3	59.7	24.5	0.5

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか。

全国R4	36.8	57.0	6.0	0.1
長野県R4	32.9	56.0	11.1	
長野県H30	21.0	61.0	17.1	
長野県H27	21.0	60.8	18.0	0.3

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか。

全国R4	42.7	54.4	2.7	0.1
長野県R4	43.7	52.0		4.3
長野県H30	31.8	61.0	6.8	
長野県H27	27.8	64.9	6.8	0.5

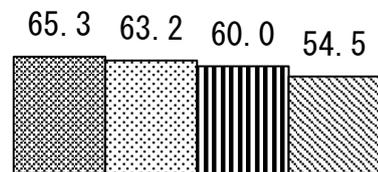
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

全国R4	44.8	51.2	3.7	0.1
長野県R4	65.1	33.4	1.1	0.3
長野県H30	73.8	24.6	0.6	0.6
長野県H27	66.8	31.3	1.9	

□週1回以上 □月1回以上 □学期に1回以上 □ほとんど、または、全く行わない

「理科の勉強は好きですか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

(2) 中学校理科 生徒の興味関心と学校の指導状況

- 生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は全ての項目で全国を上回っており、平成27年度以降、増加傾向にある。
- 学校における指導状況について、肯定的に回答した中学校の割合は全ての項目で90%程度または90%以上であり、全国を上回っている。「実生活における事象との関連を図った授業を行った」「自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った」「観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行った」は増加傾向にある。
- 観察や実験をする授業を週1回以上行っていると回答した学校は全国を30ポイント以上上回っているが、平成27年度、平成30年度を下回っている。
- 「理科の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[生徒の興味関心]

理科の勉強は好きですか

全国R4	32.2	34.2	22.4	11.1
長野県R4	34.7	36.9	20.9	7.4
長野県H30	33.4	35.8	22.5	8.3
長野県H27	30.2	35.0	24.7	9.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の勉強は大切だと思いますか

全国R4	36.9	39.9	17.6	5.4
長野県R4	37.7	41.9	16.4	3.9
長野県H30	34.2	39.1	20.5	6.2
長野県H27	32.5	39.7	21.4	5.9

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の授業の内容はよく分かりますか

全国R4	30.9	44.3	19.3	5.4
長野県R4	33.3	46.9	16.2	3.4
長野県H30	29.8	46.1	19.3	4.6
長野県H27	26.1	44.7	23.2	5.5

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R4	24.8	36.7	27.3	11.0
長野県R4	24.9	38.1	27.8	9.1
長野県H30	22.4	35.7	30.2	11.6
長野県H27	22.0	34.9	30.7	11.7

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

[中学校の指導状況]

自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか

全国R4	30.6	63.8	5.4	0.1
長野県R4	40.1	57.2	2.7	0.1

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R4	42.1	54.7	3.0	0.5
長野県R4	41.2	58.8	0.0	0.5
長野県H30	35.4	56.1	7.9	0.5
長野県H27	24.6	61.8	13.6	0.5

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか

全国R4	24.4	54.8	20.3	0.4
長野県R4	34.8	54.0	10.7	0.5
長野県H30	24.3	59.8	15.9	0.5
長野県H27	23.6	57.6	17.8	1.0

□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか

全国R4	42.9	51.7	6.4	0.1
長野県R4	58.8	38.5	2.7	0.1
長野県H30	43.9	51.9	4.2	0.1
長野県H27	34.0	59.7	6.3	0.1

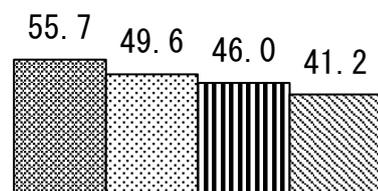
□よく行った □どちらかといえば行った □あまり行わなかった □全く行わなかった

生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

全国R4	46.5	44.7	7.5	1.3
長野県R4	80.2	19.3	0.0	0.5
長野県H30	86.8	12.7	0.0	0.5
長野県H27	83.8	14.7	0.0	0.5

□週1回以上 □月1回以上 □学期に1回以上 □ほとんど、または、全く行わない

「理科の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率

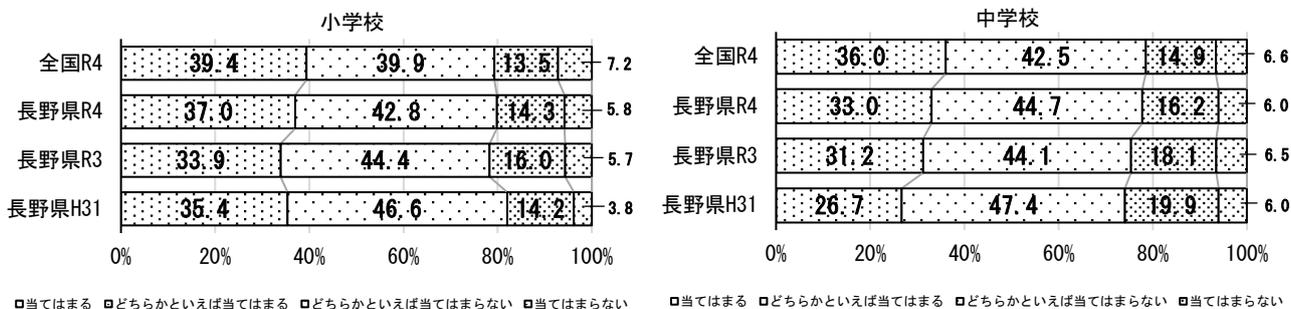


□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない □当てはまらない

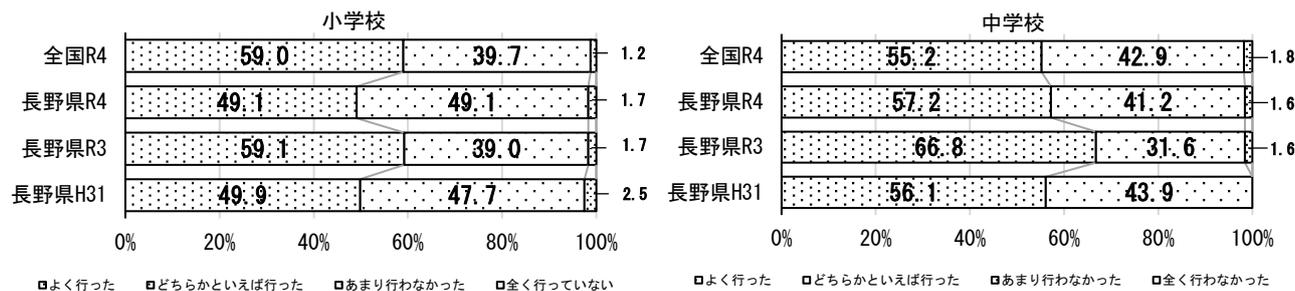
7 児童生徒の自己肯定感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに令和3年度より増加しているが、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、ともに全国を下回っている。
- 「学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか」との質問に肯定的に回答した割合は小学校・中学校ともに95%を超えており、全国の傾向と同様である。しかし、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校・中学校ともに令和3年度より10ポイント程度減少している。
- 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦しているか」について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和3年度より増加し、全国を上回っている。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか」について、肯定的に回答した割合は児童生徒ともに全国及び令和3年度より高く、90%程度である。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に肯定的に回答した割合は児童生徒ともに全国程度であり、児童は80%以上であるのに対し、生徒は65%程度である。

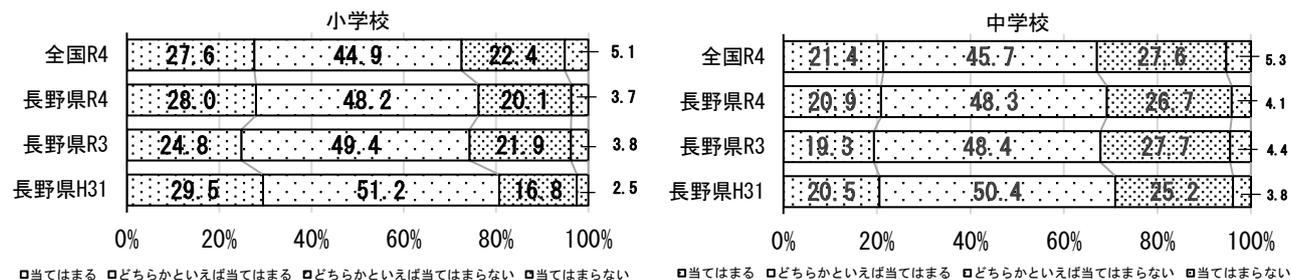
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか



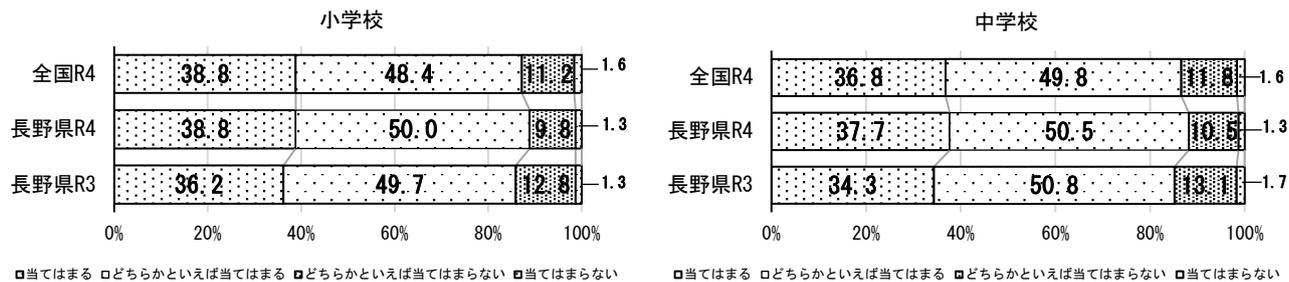
【学校質問紙】学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



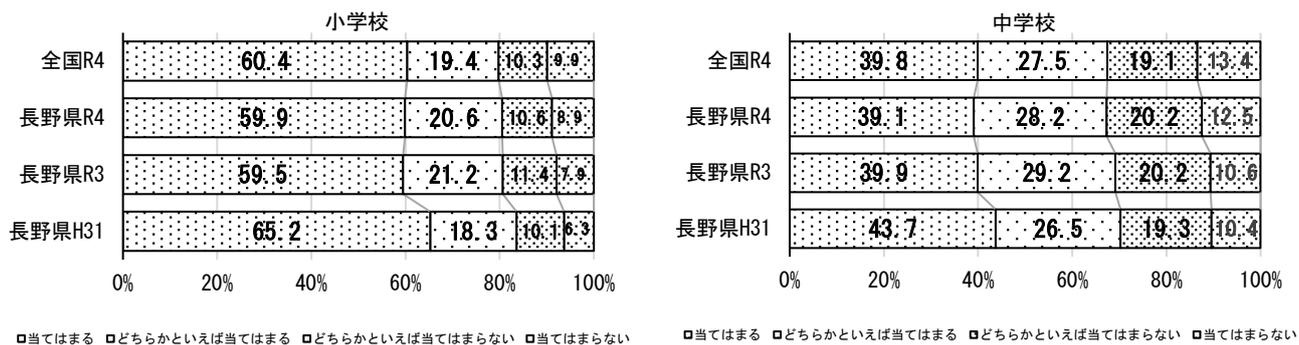
【児童生徒質問紙】難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



【児童生徒質問紙】自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



【児童生徒質問紙】将来の夢や目標を持っていますか

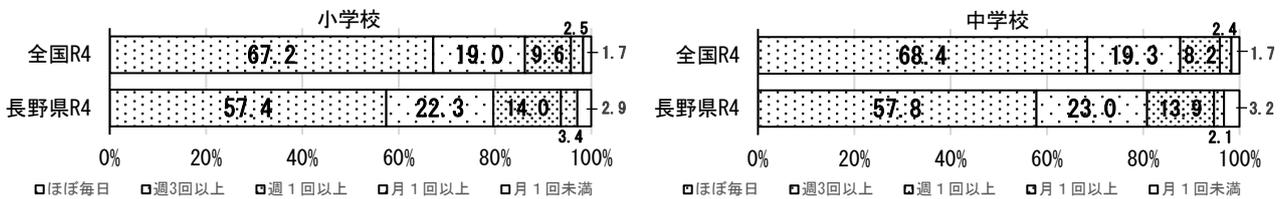


8 ICT を活用した学習状況

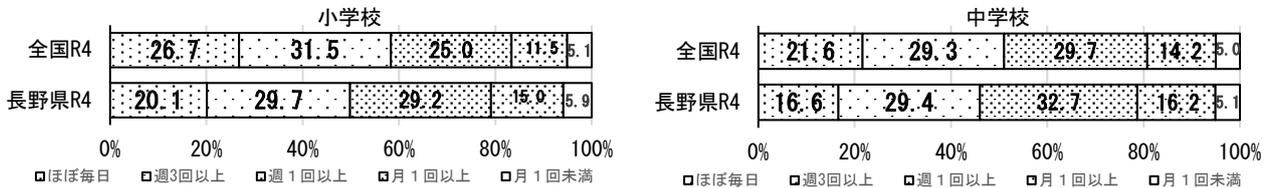
(1) ICT の活用頻度

- 教員の大型提示装置等の ICT 機器を活用した授業について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校・中学校ともに80%程度であり、全国を下回っている。
- 「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している児童の割合は50%程度、生徒の割合は45%程度にとどまり、全国を下回っている。
- 「PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」について、肯定的に回答した児童生徒は90%を超え、全国と同様の傾向となっている。
- 「PC・タブレットなどの端末を家庭で利用できるようにしているか」について、「臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている」という回答を合わせると、小学校・中学校ともに85%以上となっている。

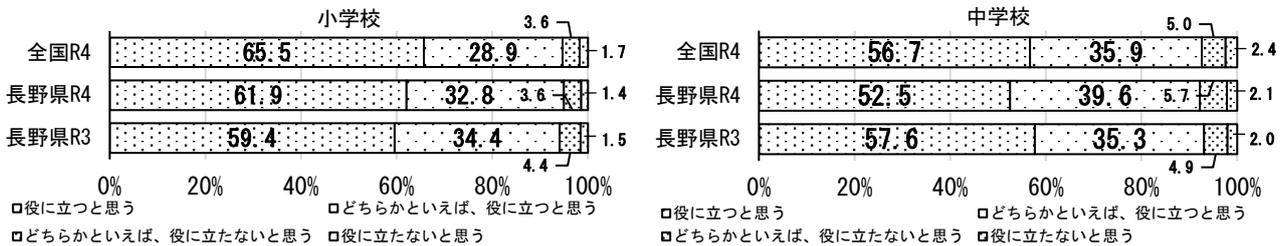
【学校質問紙】前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



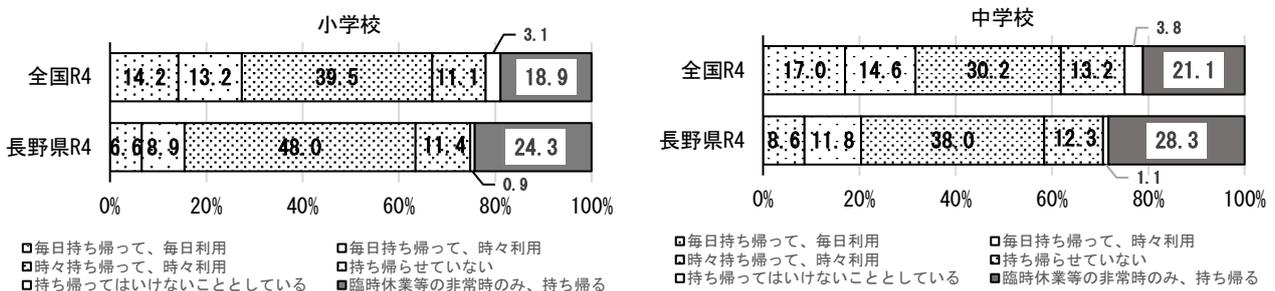
【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



【児童生徒質問紙】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立と思いますか



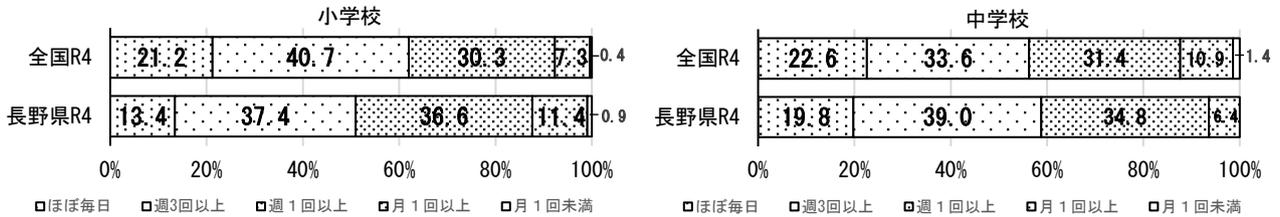
【学校質問紙】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



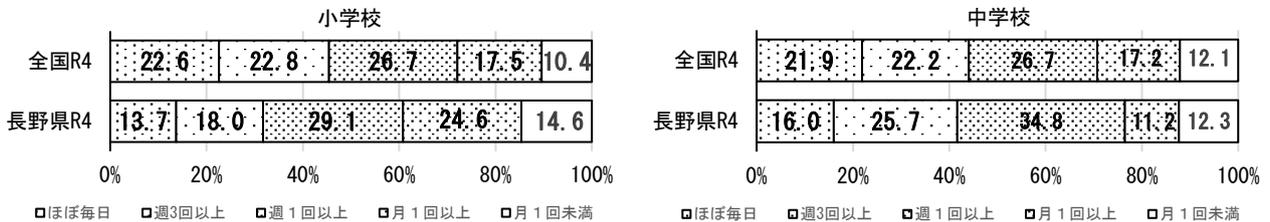
(2) 場面ごとの使用頻度

- 「自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校では10ポイント程度、全国を下回り、中学校では2ポイント程度、全国を上回った。
- 「教職員と児童生徒がやりとりする場面では、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校は30%程度、中学校は40%程度であり、特に小学校では10ポイント程度、全国を下回っている。
- 「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校は35%程度、中学校で45%程度である。小学校では7ポイント程度、全国を下回り、中学校では4ポイント程度、全国を上回った。
- 「児童生徒同士がやりとりする場面では、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校は25%程度、中学校で35%程度である。小学校では5ポイント程度全国を下回り、中学校では5ポイント程度全国を上回った。

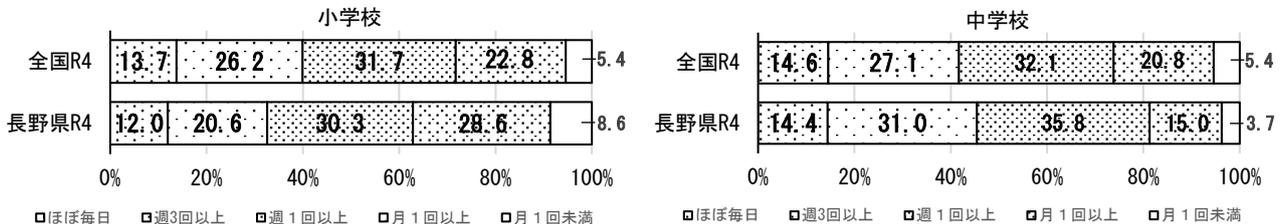
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒が自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか（インターネット検索等）



【学校質問紙】 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



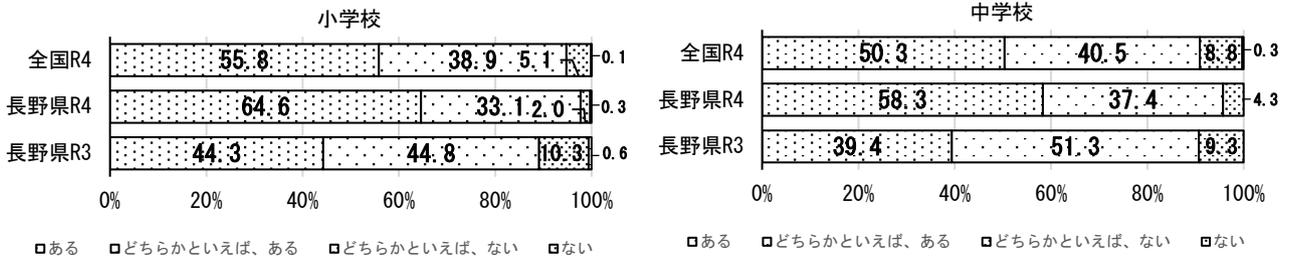
【学校質問紙】 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



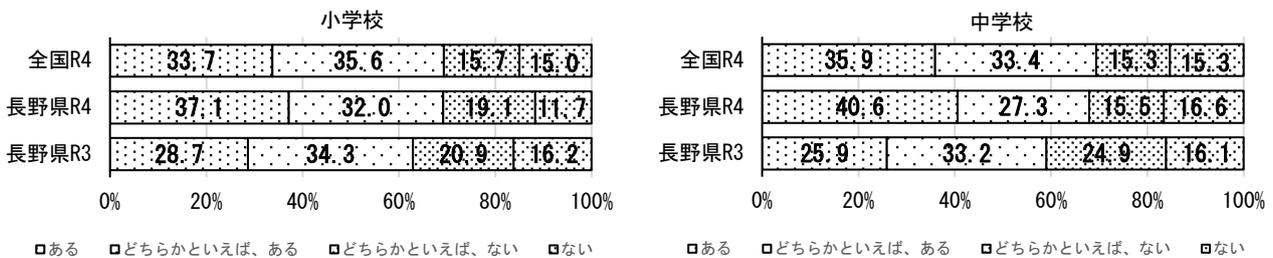
(3) ICTの活用を推進するための有効な取組

- 「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合は小学校・中学校ともに令和3年度より増加して95%を超え、全国を上回っている。
- 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分に知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合は小学校・中学校ともに令和3年度より増加して70%程度である。

【学校質問紙】教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



【学校質問紙】コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分に知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか

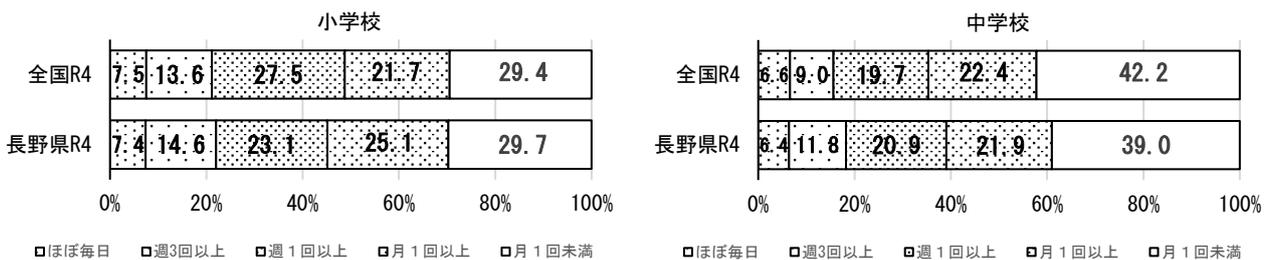


(4) 用途ごとの活用頻度

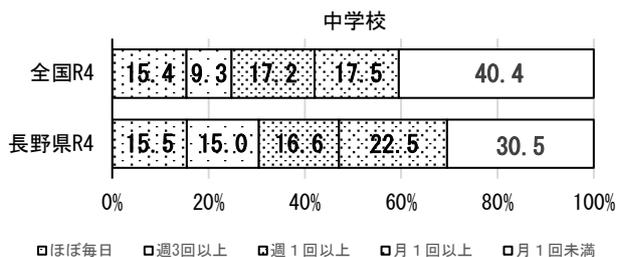
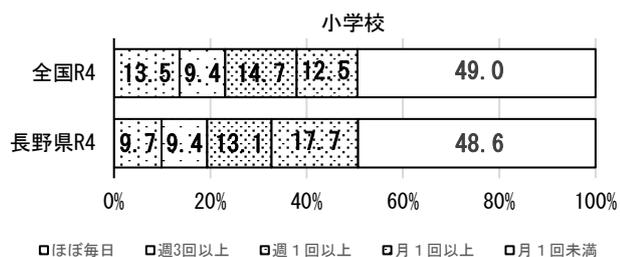
- 児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導について、「週3回以上（ほぼ毎日も含む）」と回答した割合は、小学校・中学校ともに20%程度であり、全国を上回っている。
- 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援について、「週3回以上（ほぼ毎日も含む）」と回答した割合は、小学校で20%程度、中学校で30%程度であり、特に中学校で全国を上回っている。
- 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援について、「週3回以上（ほぼ毎日も含む）」と回答した割合は、小学校で40%程度、中学校で45%程度であり、特に中学校は15ポイント以上全国を上回っている。

【学校質問紙】児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか

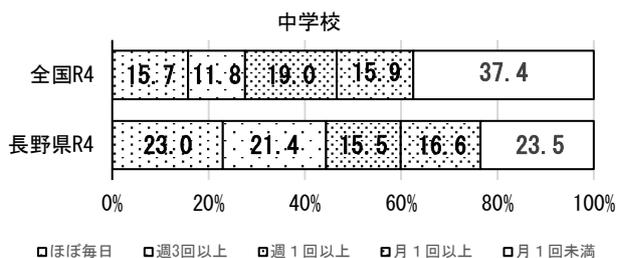
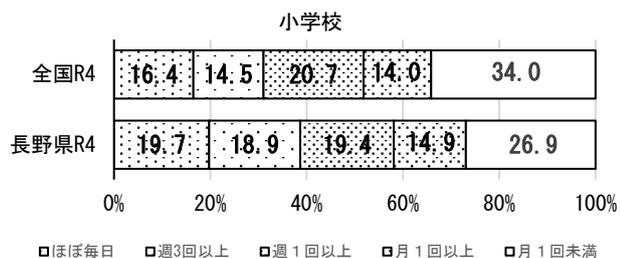
■児童生徒の特性・学習進度等に応じた指導



■不登校児童生徒に対する学習活動等の支援



■特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援



9 新型コロナウイルス感染症の影響による学校の臨時休業と児童生徒の学習状況

- 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業の日数について、令和2年度は小学校・中学校ともに「40日以上50日未満」が最も多かったのに対し、令和3年度では小学校・中学校ともに「10日未満」が最も多く95%以上である。
- 短縮授業・分散登校の日数について、令和2年度は小学校・中学校ともに「10日以上20日未満」が最も多かったのに対し、令和3年度では小学校・中学校ともに「10日未満」が最も多かった。
- 「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしているか」について、児童は「家族に聞く」が最も多いのに対し、生徒は「自分で調べる」が最も多く、児童より10ポイント以上上回っている。
- 「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしているか」について、「家族に聞く」と回答した割合が児童は85%程度であるが、生徒は50%程度である。

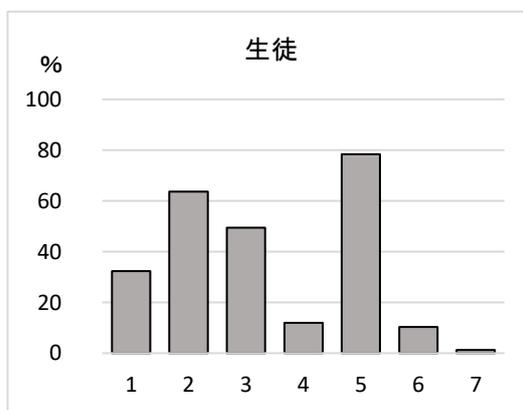
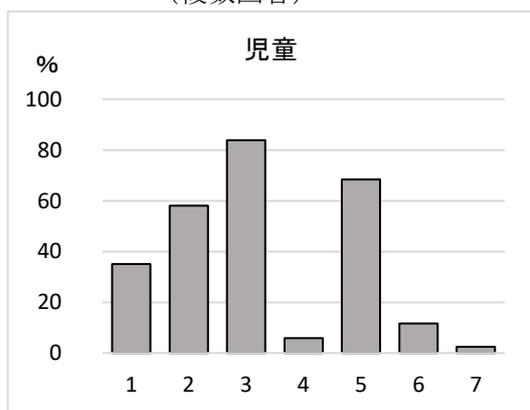
【学校質問紙】令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童生徒に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数（短縮授業・分散登校、学級単位の休業は含まない。複数回行われた場合は、合計日数を回答。）

	期間	10日未満	10日以上 20日未満	20日以上 30日未満	30日以上 40日未満	40日以上 50日未満	50日以上 60日未満	60日以上 70日未満	70日以上 80日未満	80日以上 90日未満	90日以上
小学校	全国	94.7	2.7	1.3	0.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R4	99.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R3	0.3	1.1	3.6	10.0	57.1	22.0	1.7	0.0	0.0	4.2
中学校	全国	94.8	4.4	0.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R4	98.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R3	0.0	2.1	2.1	13.0	53.9	25.4	0.5	0.0	0.0	3.1

【学校質問紙】令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童生徒に対する、学校の短縮授業・分散登校の日数（学級単位での実施は含まない。）

	期間	10日未満	10日以上 20日未満	20日以上 30日未満	30日以上 40日未満	40日以上 50日未満	50日以上 60日未満	60日以上 70日未満	70日以上 80日未満	80日以上 90日未満	90日以上
小学校	全国	82.7	9.8	5.6	0.7	0.5	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1
	長野県 R4	67.7	11.1	18.9	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R3	41.2	54.6	2.5	1.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0
中学校	全国	83.9	10.1	4.3	0.8	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
	長野県 R4	73.3	10.7	13.9	1.6	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	長野県 R3	46.1	48.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0

【児童生徒質問紙】家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか（複数回答）

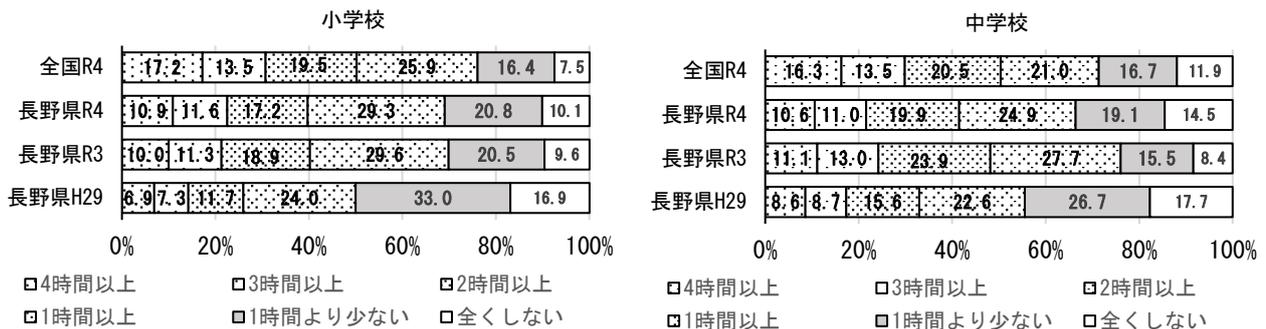


- 1 先生に聞く 2 友達に聞く 3 家族に聞く 4 先生、友達、家族以外の人に聞く
5 自分で調べる 6 分からないことはそのままにしている 7 分からないことはない

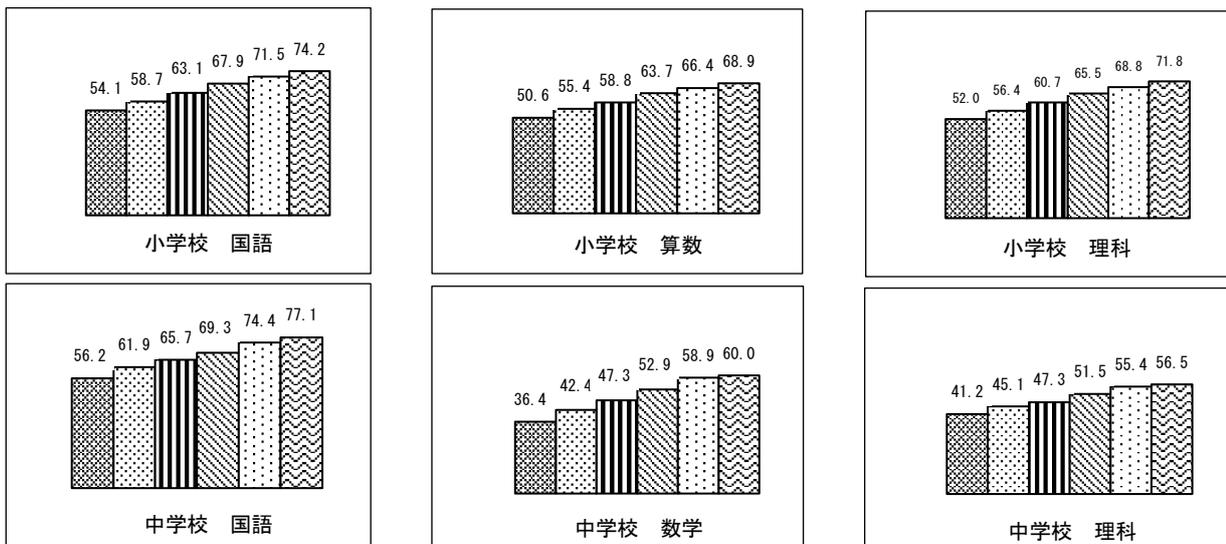
10 その他（ゲームやSNS・動画視聴の状況等）

- 1日当たりのゲームをしている時間について、1時間より少ない（全くしないを含む）児童生徒の割合は、ともに昨年度より増加し、30%以上である。「1時間以上（2時間未満）」と回答した割合が児童生徒ともに一番大きく、全国と同様の傾向である。また、児童生徒ともに、1日当たりのゲームの時間が長いほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる。
- 1日当たりのSNSや動画視聴を1時間以上行っている割合は、児童が45%程度、生徒が65%程度であり、ともに全国を下回っている。また、児童生徒ともに、1日当たりのSNSや動画視聴の時間が長いほど、各教科の平均正答率が低い傾向が見られる。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか」について、「きちんと守っている」「だいたい守っている」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度と比べて増加している。
- 「学校に行くのは楽しいと思うか」について肯定の回答をした児童生徒の割合は、令和3年度より増加しているが、全国よりも下回っている。
- 「今住んでいる地域の行事に参加しているか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、減少傾向にあるが、全国よりも上回っている。特に児童の割合は25ポイント以上全国を上回り、80%程度である。
- 「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか」について肯定的に回答した割合は、小学校・中学校ともに20ポイント以上全国よりも上回っているが、令和3年度より特に中学校で減少している。

【児童生徒質問紙】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

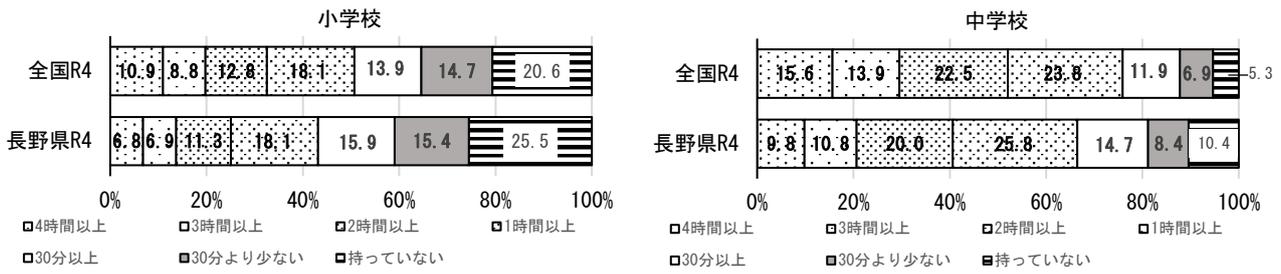


児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）

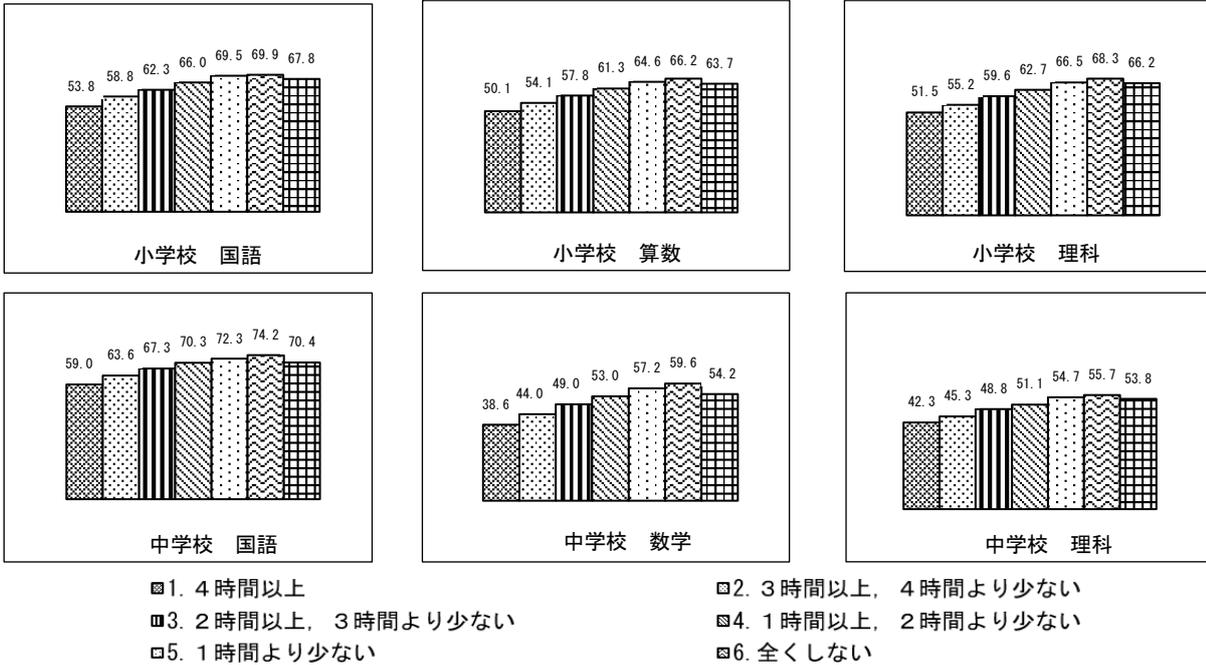


- 1. 4時間以上
- 2. 3時間以上, 4時間より少ない
- 3. 2時間以上, 3時間より少ない
- 4. 1時間以上, 2時間より少ない
- 5. 1時間より少ない
- 6. 全くしない

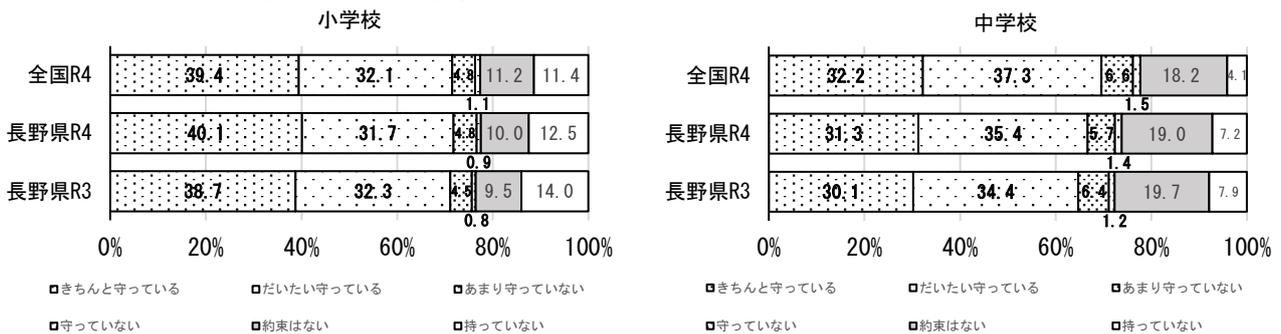
【児童生徒質問紙】 普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



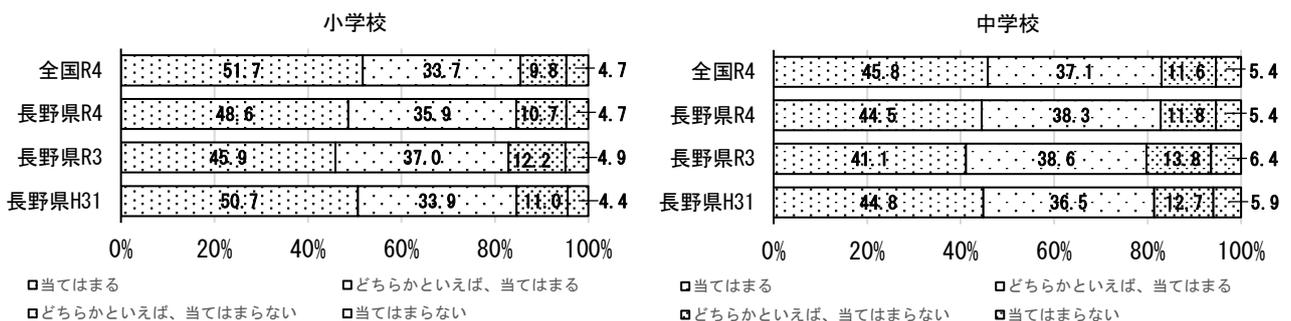
児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）



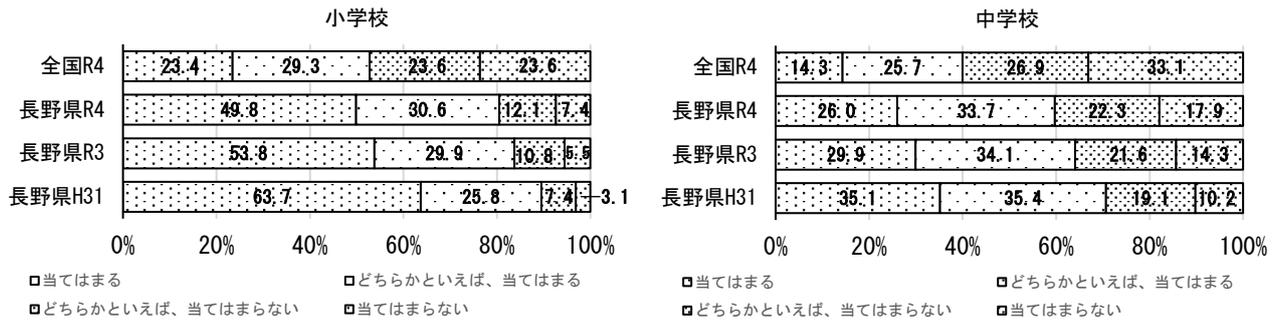
【児童生徒質問紙】 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について，家の人と約束したことを守っていますか



【児童生徒質問紙】 学校に行くのは楽しいと思いますか



【児童生徒質問紙】今住んでいる地域の行事に参加していますか



【学校質問紙】地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか

